

しゃべり場★REPORT No. 20

<お問い合わせ>

中央公民館 433-7222

浜手地区公民館 431-0926

山手地区公民館 446-0090

今年のテーマは、ズバリ!! 「公民館」

平成 27 年 10 月から貝塚市の社会教育施設(各公民館・青少年センター・ハート交流館・総合体育館)の利用に関する制度が一部変更となり公民館では、社会教育法第 20 条の目的に沿った自主活動をする団体(クラブ・サークル)についても使用料の一部負担が必要となります。

そこで、今年度の「しゃべり場★公民館」では、この機にあらためて「公民館について、さまざまな角度から語り合おう!」という趣旨で開催します。

第 1 回目ゲストスピーカー

阪南市立西鳥取公民館利用者 中西智恵子さん

今年度第 1 回目の「しゃべり場★公民館」は、4 月 24 日(金) 10 時～12 時、中央公民館講座室 2 にて開催しました。

ゲストスピーカーは、阪南市立西鳥取公民館利用者の中西智恵子さんです。阪南市では、平成 14 年度からクラブで公民館を使用する場合の使用料が一部負担となりました。中西さんの公民館での活動や、使用料が一部負担となった当時や現在の様子、思いを語っていただきました。

～ 中西さんのプロフィール～

19 年前、夫のリタイアを機に阪南市へ。公民館へ来たのは、日本語養成講座を受講したのがきっかけ。その後、「よさこい」「ハワイアンフラ」などのクラブを立ち上げるなどしているうちに、クラブ協議会役員の声が掛かり、会計や副会長の経験を経て会長へ。会長歴 11 年目。副会長をしていた時、クラブの公民館使用料が有料化となった。



公民館を語ろう!

日時 2015 年 4 月 24 日(金)
午前 10 時～12 時

場所 中央公民館 講座室 2

ゲストスピーカー

中西 智恵子 さん

(阪南市立西鳥取公民館利用者)

2015 年度「しゃべり場★公民館」



しゃべり場★公民館、今年度のテーマはズバリ!「公民館」

10 月から貝塚市の社会教育施設(各公民館・青少年センター・ハート交流館・総合体育館)の利用が一部負担となります。この機にあらためて公民館について、さまざまな角度から語り合おう! という趣旨で今年度は開催します。そして、その第 1 回目のゲストスピーカーは、平成 14 年度から、新しく使用料が 3 割負担となった阪南市立西鳥取公民館利用者の中西智恵子さん。当時の様子や思い、そして今、を語っていただき、参加者が大切にしなくてはいけないことは何か、公民館で活動することの意義をあらためて考えてみてほしい。

5 月のしゃべり場は...

5 月 15 日(金)

午前 10 時～12 時

中央公民館にて

ゲストスピーカーは

中央公民館 植田 年明 さんです。



「しゃべり場★公民館」は、3 年連続で連続開催中。「しゃべり場★公民館」について、利用者と職員、一緒に考えていこう!と 2015 年度も取り組んでいます。

お問い合わせは各公民館まで
中央公民館 433-7222
浜手地区公民館 431-0926
山手地区公民館 446-0090



公民館は
出会いとご縁の場

心のバリアフリーを
モットーに活動しています

クラブ団体の使用料が有料化して…

- ◆クラブの公民館使用料が有料化して、人数が少ないクラブは運営が困難になり、なくなったクラブもある。
- ◆地域の人が公民館を使わなくなり、夜は“しーん”としている。
- ◆阪南市には3つの公民館（尾崎・東鳥取・西鳥取）があるが、それぞれ館の事情が違っていることや、公民館まつりをするだけで精一杯。利用者の中でも（有料化に対する意見は色々あり）足並みを揃える（共通した考えを持つ）ことが難しい状況だった。

中西さんの感じたこと・思い

- ◆（阪南市でも）年々クラブの役員のなり手がなくなっている。役員になると変われるのになぁ。
- ◆公民館に来て（市民同士）交流を図り、情報交換をして元気になるのは市にとっても有益では？
- ◆（公民館側も）事業のやりっ放しでは続かない。行き場のない人（講座を受講し終わった人）たちの居場所が公民館にあればいいと思う。
- ◆カルチャーセンターは自分のため・自己満足のための場所。公民館はいつでも行けて・仲間がいて・居場所があって・つながりがある。仲間とは、フォローできる・助け合える・どんな人も受け入れできる関係。
- ◆講師の教室化しているクラブもある。利用者も講師も職員も意識の向上と勉強が必要。



～参加者感想より～

- クラブ協議会の役員になった事で出会いがあり、成長させてもらった。こんな機会を逃している人は勿体ないなぁと思う。
（有料化で）“しゅん”とするのではなく、よりパワーアップしないといけないと思う。
- 町の役員をしている。公民館まで行けない人のために、町会館で公民館の出張所のようなことができないか？と思っている。今、自分が講師としてストレッチやカラオケをしているが、1人ではしんどい。公民館の人（利用者）に講師に来てもらって、1度教えてもらったら自分たちでできるようになる。（参加する側も）1回きりの“お客さん”で終わるのではなく、続けていけるようしないと。でも、どうしたらできるのか？と悩んでいる。
- 貝塚（公民館）は恵まれていると思った。
（クラブの有料化で）これからどうなるかわからないが支えていきたい。
- 貝塚（公民館）の良さをあらためて感じた。利用者と職員が一体になっていると思う。
- 公民館は自分で学んで成長するところ。市民も職員も目指すところは一緒なのだから、ともに頑張っていきたい。
- 公民館活動をもう一度考えるチャンスだと捉え、利用者みんながつながるキッカケになるような「しゃべり場」にしたい。



「学びの場」が
広がることを
期待します



第2回目ゲストスピーカー

元貝塚市立中央公民館長 植田 年明さん

第2回目の「しゃべり場★公民館」は、5月15日（金）10時～12時、中央公民館講座室2にて開催しました。

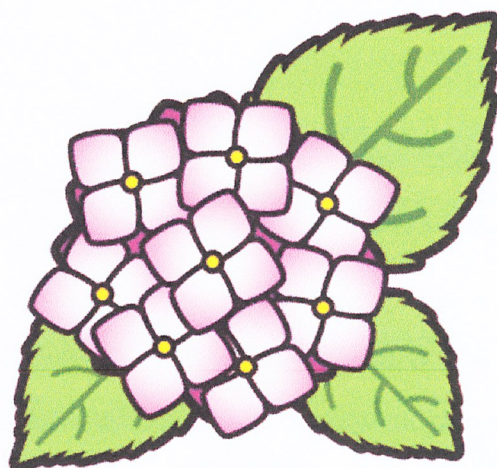
ゲストスピーカーは、元中央公民館長の植田年明さん。使用料の一部負担決定について、率直な思いをお聴きしました。また、参加者も含めて、「今（これから）自分たちに何ができるのか?」「しゃべり場で何ができるか?」などの意見交換を行いました。

植田さんの思い

- 有料化の話が出た時、「いよいよ来たか」という印象。一部でも有料化は大変なこと。自分に何ができるだろうか?と思い、今日この場に。
- 公民館から一歩外へ出ると違った考え・見方がある。（公民館利用者と利用していない・知らない人との違い）
- 「公民館は自由なたまり場」と言いながら、有料化について職員（公民館）と利用者の中で自由な話し合いがされていないことについて、職員は矛盾を感じていないのか?自由な話し合いができてこそ公民館では?
- 利用者から「公民館を利用しているのだから、少しぐらい支払ってもいいのでは?」という声がある。このような声があるというのは、公民館活動の中身を利用者自身が気づいていないのでは?60年の歴史の中で、当然のように職員が事務所に居て、利用者の悩みの調整や自由度がある公民館の姿が普通に自然化されている結果。（利用者にもいろんな考え方があるので）市民の学習の機会も必要では?

《右上に続きます》

- 第1回目の中西さんの話の中に、今後のしゃべり場のテーマがすべてある。中西さんの話にあったようなことになりそうな時にそうさせない学び、行動を考えていく。例えば、役員のなり手が無い→役員制度を考える、クラブがなくなる→なくなる原因について細かく具体的なことをもっと考える、クラブの教室化→対応を考える、など。
- 1回目の参加者の中に「“しゅん”とするのではなくパワーアップしたい」とあったが、そうなるための学びが必要。
- 負担があっても、楽しい・やりたいと思える公民館活動にしていけることが大事。



～ 参加者感想より～

- 有料化についての話を、どこにどういう風に持っていけばいいのかわからない
- 有料化の話は降って湧いたような話。
- 地域をつなぐ・学びを地域へ、と言って活動していくことが、使用料を払ってるのに…となっていないか？
- 個人的に有料化に対する意見を聞いたりしていたが、クラブから声がないことにがっかり。
- 今、地域に貢献するとして市内施設等へ出かけたりしている。そういった公民館活動をする中で見返りや評価は何もないのか？と思う。
- 同じ高齢者が利用するのに福祉センターは無料。市民から見たらおかしいことがまだまだある。
- 今回のことで、あらためて感じたのは利用者の危機感がないこと。自分たちのことしか考えていない人もいる。利用者の意識を上げるための学びが必要。職員は変わっても、利用者は変わらないのだから、利用者が公民館を守っていく体制を作っていかなければ。
- 無料で誰でも自由に来れる場所だったのに、お金を出せない人もいるので、有料化して来れない人ができることが残念。今からできることを一緒に考えていきたい。



- 有料化の話を知ったのは議会で可決される直前。今貝塚公民館がこうなっているという状況や、他市では有料化になっているところもあるということなど、どこまでみんな知っていたのかと思う。知る努力をしていなかったと思う。現状に甘えてしまっているのでは？「決まったから」と思うだけじゃなくて、自分たちでできることをやっていけたらいいと思う。
- 今回議会の傍聴に初めて行った。何を言っているのか難しくてわからなかった。でも、選挙に行かなきゃ！と思った。自分たちにできることって何だろう？自分たちの意識を変えたい。
- 私は自分たちの活動に評価や見返りは求めているけど、自分たちのやっていることはアピールしていかないといけないと思う。
- 貝塚の良いところを維持したい。
- 3館で連携していく学びの場が必要だと思う。公民館について話す場である「しゃべり場」に参加者が少ないのは「しゃべり場」が知られていないから？意識がないから？理解していないから？クラブ以外の団体（子育てなど）も3館一緒にいろんな利用者が集まって話せるのってしゃべり場しかないのでは？

以上、さまざまな感想・意見が出ました。

みなさんも、公民館について
「しゃべり場★公民館」で
一緒に考えませんか？



「しゃべり場★公民館」って？

公民館利用者と職員と一緒に「公民館」について話す場です。しゃべり場だけど聴くだけでもOK！誰でもいつからでも参加できます。

今年度

春からの「しゃべり場★公民館」では、「第2回貝塚公民館大会」の4つの分科会のDVDを観ることから始まりました。その時の感想で「もっとこの話が聞きたい、あの人やこの人にこのことを聞きたい。」と盛り上がりしました。

そこで！今年度のテーマを「個人のライフヒストリーから公民館の歴史を聞いたり、活動の広がり学ぶ場とする」ことにしました。公民館に来たきっかけや、そこでの人とのつながり、学びを聞くことで今の自分たちにできることを探すきっかけとなれば素敵なことだな、とも思っています。「公民館の学びを地域へ」をキーワードに公民館での学びを地域へ発信している方々をお招きします！

さて何人のライフヒストリーを紹介できるでしょうか！！

2月24日（火）13時半～ 中央公民館・講座室2

成功に終わった貝塚公民館大会・大会でしゃべり足りなかった人が集合！

～ 2月14日200人を超える大会となりました。～

昨年9月より実行委員会を立ち上げ、会議を重ねながら利用者・職員で作上げた公民館大会。

テーマ「公民館ってこんなところ～公民館はカルチャーセンター??～」講師には千葉大学教育学部教授の長澤成次氏を迎え、さらに第2回公民館大会でご協力いただいた東北大学大学院准教授の石井山竜平氏も駆け付けてくれ、山手地区公民館ホールいっぱいの参加者で開催されました。

基調講演を聞いた後は、講師の二人も驚きの23グループに分かれてのグループワークを行いました。山手地区公民館内のあちこちで話し合う様子はとても素晴らしい光景でした。

その後の発表も自然に発言者が次々と表れ4時間という長丁場でしたが、ほとんどの人々から「あっという間だった。」「もう少し時間があればよかった」との感想があげられました。



基調講演の様子（山手ホール）



23のグループに分かれて、3つのテーマで話し合いました。



グループワークの様子です。机の上にいっぱいのメモ！話す時間がたりないグループもたくさんありました。



ロビーにしゃべり場で作ったできたてのリーフレットを拡大して展示しました。

しゃべらなければ始まらないよ しゃべり場だッ！

2月24日火曜日 13時半より中央公民館講
座室で「しゃべらなければ始まらないよ しゃ
べり場だッ！」を行いました。

公民館大会前から予定していたことや、大会
の熱気冷めやらぬうちに開催したこともあっ
てか、いつもより多い21名の参加があり、初
めて「しゃべり場」に参加した人たちもいまし
た。

まずはしゃべり場発起人からこの場の説明
と「文句のいう場所ではなく、建設的な意見を
言いあう場所」といった確認からはじまり、そ
れぞれが自己紹介を兼ねて大会の感想を述べ
合いました。大会に参加した人からは良かった
点・次回の課題とすべき点などの発言があっ
たり、大会には参加できなかったがこのしゃべ
り場にきた人からは、出た人からの感想を聞いて
「次回はぜひ参加したくなった。」などの発言
がありました。

公民館大会を振り返って

- 200名もの参加者、講師からも驚きの声があり、
ちょぴり誇らしく思いました。
- 寒さを心配しましたが、熱気のある大会でした。
- しぶしぶ参加した人が、終了後に「参加して良
かった」と言っていた。
- 子どもを連れていましたが、周囲の人たちが温
かく受け入れてくれて嬉しかったです。
- 参加できなかったが、参加した人から話を聞いて
来年こそ出ようと思いました。
- 時間があっという間に過ぎて楽しかったです。
- グループワークは意義深いものとなりました。
- 「サークル活動=社会教育活動」とは知っていた
が、今回長澤先生の話聞いて再度確認できま
した。
- いろいろな館、いろいろなクラブを越えて知り
合いになれたことが良かった。
- 受付が混雑したが、当日参加が多かったのも嬉
しかった。
- 1年に1回するではダメ。場づくりをしていく。



「これから」への思い

- 長澤先生の話で千葉県の(公民館)有料化の話聞き危機感を感じました。勉強していかなくてはと思います。
- 長澤先生の話聞いて、無料で使える理由も最初は知らなかった。しかし、今回活動(貝塚公民館大会への参
加)を通じて知ることができた。
- 貝塚の人たちはニコニコしてクラブをしている。人の悪口をいってる場(暇)がない。
- 行政の中で公民館への理解が薄いように感じる。もっと知ってほしい。知ってもらう方法を探そう。
- 公民館は高齢者対策・子育て世代対策にとっても役立っていることもPRしていきたい。
- 公民館利用者のネットワークの広さはスゴイ。公民館の利用者同士のつながりを線で繋いでいくと、その線の多
さはPTAの比ではない。
- 公民館や利用者のチームワークの良さがわかるようにデータ化することはできないか？(例えば幸福度調査・・・
公民館へ来ている人や、その周りにいる人は幸せを感じていると思う！！)
- フレイパークがオアシスになればいいな。
- 人と人が繋がるしかけは、公民館まつりやバザーなどがある。
- 外から見た「貝塚公民館」を知る。学習する機会を作る。

しゃべり場★公民館とは

平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつ
もの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！
それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・
職員の立場関係なく『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者
と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



今年度

春からの「しゃべり場★公民館」では、「第2回貝塚公民館大会」の4つの分科会のDVDを観ることから始まりました。その時の感想で「もっとこの話が聞きたい、あの人やこの人にこのことを聞きたい。」と盛り上がりました。

そこで！今年度のテーマを「個人のライフヒストリーから公民館の歴史を聞いたり、活動の広がり学ぶ場とする」ことにしました。公民館に来たきっかけや、そこでの人とのつながり、学びを聞くことで今の自分たちにできることを探すきっかけとなれば素敵なことだな、とも思っています。「公民館の学びを地域へ」をキーワードに公民館での学びを地域へ発信している方々をお招きします！

さて何人のライフヒストリーを紹介できるでしょうか！！

1月13日（火）13時～15時 中央公民館・講座室

ゲストスピーカー：藤谷 ゆき子さん（貝塚学習グループ連絡会・代表）

～ 藤谷さんのあゆみ～

中央公民館で20年余り活動中（講座生→保育ボランティア→貝塚学習グループ連絡会代表10年）。「貝塚の知恵袋」や「まなびーネット貝塚」にも所属。「公民館運営審議会」、「男女共同参画のまちづくり」の審議会委員としても参加。介護用品販売とレンタルのお店「NPO 法人わとわ」で高齢者の居場所作りに活躍中。



公民館との出会い

昭和59年に息子が生まれ、公園デビュー。公園で知り合った友達に誘われて、保育付き講座「おや子教室」を受講。のちに、保育ボランティアをすることに。当時、公民館の建て替えに伴い、ベテランボランティア達は保育室を新しく作ろうと、活発な活動をしていた（「公民館保育を考える会」）。自身もボランティア仲間に誘われるがまさに「公民館保育を考える会」に席をおき、学習グループ連絡会に所属することになった。

「学習グループ連絡会」に所属して

学習グループ連絡会に所属はしていたものの、「学び」に対する意識は低いままで、会議にでも「みんな難しい話をしているなー」とただ座っているだけだった。気づいてみたら、数年が過ぎ学習グループ連絡会の定例会に出席するよう頼まれた。あれよあれよと広報委員を頼まれ、副代表を頼まれ、代表を頼まれて…、断れずに引き受けざるを得なかった。



「学習グループ連絡会」代表になって

みんなが定例会に出たくなるような楽しい会議にしたいと思い、レジュメを丁寧に、伝えたいことを書き記して作ることを心がけた。また会議時間も半分は雑談の時間にした。雑談から出た話が講座につながったりと雑談にこそ貴重な学びがあった。

なかでも20年間継続した映画会からはたくさんのお話を学んだ。（映画会は2012年度で一旦終了）自分がしんどいと思うと、みんなもしんどくなるので抱え込まず、協力してもらいながらの運営。映画会は大変なこともあったが、みんなと一緒に頑張っているという充実感、目標に向かっていく達成感を共有できたことは、普通では絶対に経験出来ない宝物。みんなの熱意に感謝している。お客さんから「映画会良かったよ」と言われるとしんどさは吹っ飛んだ。

公民館から地域へ「NPO 法人わとわ」

「公民館で学んだことを地域に活かしていきたい。」と思うようになり、NPO 法人わとわに在籍。（「わとわ」：公民館で活動していたメンバーで、福祉用具が出始めた頃「福祉用具を普及することですべて死ねるまで自宅で暮らせるように。」との思いで立ち上げた店）ヘルパー2 級や福祉用具専門相談員資格も取得した。ここでは介護用品の販売だけが主目的でなく、高齢者の居場所作りをめざしている。高齢者の自宅にも訪問するが、自分が行くのを心待ちにしてくれていて、とても嬉しい。高齢者との関わりで、自分が学ばせてもらっていると感じる。

今までを振りかえって

義両親と同居していたこともあり、公民館での活動の理解が得られず、夫の協力で靴を隠してこっそりと会議に出かけたこともある。でも会議に出ると、いろんな人に出会えて、世界が広がり元気がもえた。

いろんな役を引き受けて、人とのつながりができたからこそ、今がある。子育てに悩んだ時

は子育てネットワークの講座にわらをもすがら思いで受講したこともある。公民館があったから、子育ても介護もクリアできた。これからは恩返ししていきたいと、色々な活動をしている。

これからの思い

「NPO 法人わとわ」がもっと高齢者の居場所となれるように、頑張っていきたい。食事会や、絵手紙教室、書道教室の開催を充実させていきたい。高齢者と子どものふれあいの場にもなるよう目指している。

昨年末、「心身機能活性運動療法士 2 級」を取得。貝塚市で広めたいと思っている。貝塚市で元気な高齢者を増やしたい！そのために、まずは「わとわ」から広めていけたらいいな。

*学習グループ連絡会とは、

1992 年に公民館で学ぶ学習グループが結集して、学び合い、個々のグループの学習の発展や異世代交流を目的に発足。当時は女性問題（子育てから介護、自身の老後問題まで）について考えるグループが多く活動をしていた。



参加者感想より

- 役員をやっていると追いつめられることがある。藤谷さんが逃げないのは芯があったから。危機もチャンスも学びに変えた。色んな場面で助けてくれる人がいたんだな。
- 藤谷さんは公民館の活動で大きく強くなったんだな。役をやったことで、人とつながり、世界が広がった。だからこそ頑張っただけなんだと感じた。
- （自分も）公民館に助けられた。我が家のような公民館。公民館で挨拶をするだけで嬉しい。公民館のおかげで楽しく 50 代の青春を迎えられる。空の星になるまで公民館。
- 藤谷さんは本当に人が好きなんだな。「人が好き」という気持ちが公民館活動を支えている。この気持ちがあれば大丈夫。公民館＝人、地域＝人
- 介護や仕事で忙しいから公民館に来れないではなく、公民館がリフレッシュの場になっているのかな。
- （自身も学習グループに所属しているが）仲間が助けてくれるから活動を続けている。気持ちが落ち込んでいた時に藤谷さんと話すと前向きになれる。

しゃべり場★公民館とは

平成 24 年 3 月に開催された 3 連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



今年度

春からの「しゃべり場★公民館」では、「第2回貝塚公民館大会」の4つの分科会のDVDを観ることから始まりました。その時の感想で「もっとこの話が聞きたい、あの人やこの人にこのことを聞きたい。」と盛り上がりしました。

そこで！今年度のテーマを「個人のライフヒストリーから公民館の歴史を聞いたり、活動の広がり学ぶ場とする」ことにしました。公民館に来たきっかけや、そこでの人とのつながり、学びを聞くことで今の自分たちにできることを探すきっかけとなれば素敵なことだな、とも思っています。「公民館の学びを地域へ」をキーワードに公民館での学びを地域へ発信している方々をお招きします！

さて何人のライフヒストリーを紹介できるでしょうか！！

12月16日（火）10時～12時 中央公民館・講座室

地域で老人会を立ち上げた 石原さん（ロコモフレンズ）、溝口さん（窪田シャルマン長生会）のお話

今回のゲストスピーカーは、ご自身が住んでいる町会で老人会を立ち上げた男性お2人。「ロコモフレンズ」を立ち上げた石原隆則さんと「窪田シャルマン長生会」を立ち上げた溝口雅克さん。お2人は公民館利用者でもあり、公民館との出会いから地域活動に至るまでをお話してくださいました。



公民館との出会い・公民館活動

石原さん

定年後、妻から「公民館にでも行きなさい」と言われ公民館デビュー。いくつかの講座を受けるうちに仲間もでき、参加することが楽しみに。今は5つの活動（遊び隊、おやじのシンプルキッチン、貝塚の知恵袋、傾聴ボランティア「そよ風」、しゃべり場）に参加。

遊び隊に参加して2年程は、学校などからの要請をこなすだけで何をしたらいいのかわからなかった。公民館主催の「遊び講座」が終わった後、公民館側から「自主活動しなさい」「地域に出なさい」と言われて非常に困った。会社員時代に「組織を動かすということは、自分が会社の金と人を動かすことができるということだ」と気付き、会社は縦のつながり、公民館は横のつながり、と違いはあるが、「おもしろそう、やってみよう！」と遊び隊の隊長となり現在に至る。隊長になってからは、今まで行ったことのない所へ電話をかけて営業活動をするようになった。

私にとって公民館は、新しい自分を見出してもらったところであり、公民館が自分の居場所となった。

*石原さんの公民館との出会いについてはレポートNo.11にも掲載しています。また、遊び隊の活動についてはNo.12をご参照ください。

溝口さん

65才で市の嘱託職員定年後、自分は家に居る方ではないのでどうしようかと思っていた。つるかめ大学やあそび隊（現、遊び隊）、オカリナ講座、ハーモニカ講座などに参加。オカリナ講座終了後には講師をしていていた「オカリナふぁみりあ」に入会。また、ハーモニカ講座終了後には集まった人に「クラブを作らないか？」と声を掛け、言い出しっぺなので代表を引き受け「貝塚ハーモニカ・アンサンブルクラブ」を立ち上げた。後にアンサンブル演奏を主目的とするグループが浜手に拠点を移し、「ハーモニカ・アンサンブルアンダンテ」を結成。他にも、知り合いが入っていた「熟年コーラス銀の貝」を見学しに行ってそのまま入会。現在では3つのクラブの代表をしている。

公民館活動としてはアンダンテの活動が忙しい。浜手で月2回、自身居住のマンション集会所で月4回の活動。老人介護施設や地域の老人会へボランティア演奏にも出掛けしている。一緒に歌って盛り上がってくれると嬉しいし、やったかいがあったと思える。公民館でも地域でも、まだまだやればできるとあると思った。



公民館活動から地域へ ～老人会立ち上げ～

石原さん

ロコモ町会は 169 世帯、住民の平均年齢が 20 代と若い。現在 60 才以上は 35 人。3 年程前、町会の総会で「老人会を作らないのですか？」と質問したが、若い人が多くて関心も少なく、作りたくても役員のなり手がないという事だった。平成 25 年秋、班長になったのをきっかけに老人会を作ろうと思ったが、作り方がわからなかった。そんな時、貝塚の知恵袋で出会った東山地区の人から「公民館に相談した」ということを聞き、中央公民館に相談。町会へ老人会を立ち上げたいと話をした。

老人会の 1 回目の集まりは、ほとんどが初対面で話がはずまなかった。会の名前がなかったので、次回までに考えて来てもらい、みんなで話した結果「ロコモフレンズ」となった。会を運営するにも流れがあると思い、再度公民館に相談し「健康サロン」で来てもらったり、シンプルキッチンで作ったいちご大福をみんなで作ったり、地域に行きたいがどんな方法があるかわからないと言っていた陶芸クラブに声を掛けて来てもらったりと、公民館をいろいろ活用した。

溝口さん

自分が居住するマンションは 270 世帯あり、60 才以上の人も多いが横のつながりが少なかった。公民館活動を通じて横のつながりが非常に大事だと思っていたので、以前管理組合の役員をしていた人達と協力して「来る人が少なくてもやってみよう！」と「窪田シャルマン長生会」を立ち上げた。現在は 25 名くらい入会している。花見や公民館の「健康サロン」、スポーツ吹矢、AED の講習、飲み会を行ったり、原子炉見学、「歩こう会」へ参加したりしている。飲み会をすると、今まで薄い壁があったと感じていたのがなくなった気がする。あとは、有志でボーリングやカラオケに行ったりして楽しんでいる。



参加者感想より

- 会社人間から地域へと、典型的な団塊世代の大化けの話が聞けた。つながりの連続を発展させ、育てていった人たちだと思った。そこに公民館の関わりがあった。
- 女性は地域でもつながりがあるが、男性が定年後、上手に地域でつながって楽しんでやっていると思った。できる人はいくつも役ができるんですね。
- 中心的な役割を引き受けるのは大変だが、ものすごくパワフルだと思った。
- 公民館は人の人生を救っているんだな、と感じた。

今回お話を伺ったお二人は「公民館へ来ていなかったら老人会の立ち上げを考えなかったと思う」とおっしゃいました。公民館活動を通じて人のつながりの大切さ、仲間や居場所ができることの喜びを感じた経験が、地域でも！という行動につながったのではないのでしょうか。石原さん、溝口さん、ありがとうございました。

しゃべり場★公民館とは

平成 24 年 3 月に開催された 3 連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



◆◆◆◆ 今後の予定 ◆◆◆◆

2 月 2 4 日（火） 13 時 30 分～ 中央公民館 講座室 2 で開催します。

しゃべり場に興味のあるかた、2 月 1 4 日（土）の第 3 回貝塚公民館大会でしゃべりたりなかったかた、誰でもいつからでも参加していただけますので、是非お越しください。お待ちしております。

今年度

春からの「しゃべり場★公民館」では、「第2回貝塚公民館大会」の4つの分科会のDVDを観ることから始まりました。その時の感想で「もっとこの話が聞きたい、あの人やこの人にこのことを聞きたい。」と盛り上がりしました。

そこで！今年度のテーマを「個人のライフヒストリーから公民館の歴史を聞いたり、活動の広がり学ぶ場とする」ことにしました。公民館に来たきっかけや、そこでの人とのつながり、学びを聞くことで今の自分たちにできることを探すきっかけとなれば素敵なことだな、とも思っています。「公民館の学びを地域へ」をキーワードに公民館での学びを地域へ発信している方々をお招きします！

さて何人のライフヒストリーを紹介できるでしょうか！！

10月31日（金）13時半～15時半 中央公民館・講座室

ゲストスピーカー：貝塚子育てネットワークの会・先輩ママ大谷美代子さん

～ 大谷美代子さんプロフィール ～

「貝塚子育てネットワークの会」の先輩お母さん。31歳の息子さんを筆頭に、29歳と26歳の娘さん、そして19歳の息子さんの4人の子どもを持つ母。現在はフルタイムで仕事をしながら、地域では青少年指導員、また公民館では、先輩お母さんとして後輩たちの活動をフォローしたり、講座にも積極的に受講している。



乳幼児サークル「さくらんぼ」との出会い

貝塚で育ち、結婚後堺市へ引っ越して10年後に貝塚へ戻ってきたが友達がいなかった。公園に行っても誰もいない…という日々。そんな時、さくらんぼ体操のチラシと出会った。初めはなじめず、自分は楽しくなかったが子どもが行きたいというので通っていた。公民館まつりの時期に出し物の準備をしているお母さん達を羨ましく思い、自分も関わるようになりサークル活動が楽しくなってきた。その後、ファミリー劇場やプレイパークにも関わるようになった。



だけの集まりでは分からないことを知ることができ、人生に深みを持てたと思う。

学G連と公民館の共催講座「自分を大切に生きる生き方とは」を受講して感動。他の人にも伝えたいと思い、子育てネットワークの会や、家庭学級でも講座を企画した。



PTAの活動へ

サークルには自分の校区の人が少なく、地域で相談できる人がほしくてPTAに関わろうと思った。幼稚園から高校までずっとPTA役員を引き受けた。PTA役員をすることで、学校と深く関わることができ、他のお母さん達のことともよく知ることができた。人を知ることが好きで、「大谷さんをお願いしたら大丈夫」と頼られるとやる気がおきた。活動を通じて、自分も高められるし達成感や充実感を感じられた。

「学習グループ連絡会」との出会い

さくらんぼは学習グループ連絡会（以下、学G連）に入っていたが、当初「なんで入らなアカンの？」と思っていた。

学G連にはいろいろな世代の女性がいて、さまざまな生き方、考え方に触れることができた。学G連メンバーの話を聞くことで、若い母親達

公民館活動と仕事

サークルを辞めて、働きたいと思ったこともあった。公立保育所に見学に行った時、フルタイムで働くお母さん達ばかりで、パートをしながら片手間で行く場所ではないと感じた。「今はしっかりと子どもと関わろう」とサークルを続ける決意をした。

子ども達も大きくなり、仕事をはじめたが、今までの活動も続けていきたいと思い、午前のパートを選んで活動の両立を行った。

Q. 子育て、サークル活動、仕事、PTA役員等…どうやって両立させたか？（参加者より質問）

「どの活動も辞めたくない！」という気持ちがあった。やらずに後悔をしたくなかった。

しんどい時も、人と話をしていると来て良かったと思った。ダラダラと過ごすのならば、人と会って何かを吸収したいと思ったし、充実感があった。



公民館で得たもの

30代・40代と公民館にどっぷりと関わり、自分も子どもも成長できた。人とつながり、いろいろなことを知ることで、視野が広がり、社会を知ることができた。普通の主婦じゃできないことを体験できた。



みんなと一緒にやってきたから、しんどいことも頑張ってきた。公民館でいろいろな人と知り合って、今がある。子どもが思春期でしんどかった時も「大谷さんの子どもだから大丈夫」と声をかけてくれ、周りの人が見てくれていると感じることができた。人とのつながりは自分の財産である。

*学習グループ連絡会とは、

1992年に公民館で学ぶ学習グループが結集して、学び合い、個々のグループの学習の発展や異世代交流を目的に発足。当時は女性問題について考えるグループが多く活動をしていた。

参加者感想より

- 母親の苦勞、女の強さを知った。「役は人を作るし、人を潰す」という言葉もあるが、（大谷さんは）役を引き受けていくことで、強くなっていったんだなと思った。
- すごくポジティブなパワーをもらった。自分もまだまだ頑張ることができそう。
- ずっと仕事ばかりだったので、地域へお返しをしていかなければいけないなと思った。
- （自分も）公民館で長年活動をしているからいろいろな力がついた。公民館に来ていなかったら全然違う人生だった。本当に公民館に育ててもらった。
- 自分らしい生き方をしているのが素敵だな。
- （自分も）学G連で活動をしていていろいろな人との出会い、考え方に出会った。公民館っていいな。

しゃべり場★公民館とは



平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。

◆◆◆◆ 今後の予定 ◆◆◆◆

2月14日（土）13時～16時、山手地区公民館にて『第3回貝塚公民館大会』が開催されます。

テーマは「公民館ってこんなところ ～公民館はカルチャーセンター？～」。

公民館大会に参加して、みんなで公民館を語りましょう！



公民館大会に
参加しよう！

今年度

春からの「しゃべり場★公民館」では、「第2回貝塚公民館大会」の4つの分科会のDVDを観ることから始まりました。その時の感想で「もっとこの話が聞きたい、あの人やこの人にこのことを聞きたい。」と盛り上がりました。

そこで！今年度のテーマを「個人のライフヒストリーから公民館の歴史を聞いたり、活動の広がり学ぶ場とする」ことにしました。公民館に来たきっかけや、そこでの人とのつながり、学びを聞くことで今の自分たちにできることを探すきっかけとなれば素敵なことだな、とも思っています。

さて何人のライフヒストリーを紹介できるでしょうか！

11月17日（月）10時～12時 中央公民館・講座室

ゲストスピーカーは中央公民館クラブ「人形劇あひる」です。

～「人形劇あひる」の紹介～

1982年の貝塚中央公民館人形劇入門講座から発展し、誕生しました。今年3名の仲間が加わり、現在12名のメンバーで活動しています。

地域の幼稚園や保育所、子ども会、支援学校などから招かれて公演をしています。また、毎年コスモスシアター小ホールで定期公演を行っています。

子どもたちの笑顔やパワーを活動源にして人形作りから音響、舞台作りまですべて手作りで、メンバー全員試行錯誤しながら楽しく活動しています。

「人形劇あひる」のHPより (名前の由来について)

気持ちよさそうに泳ぐあひるも
水面下では激しく足を
動かしているように

私たちも幕の下では
人形に魂を吹き込む
つもりでがんばって
います。



メンバーとなったきっかけやクラブが続いている訳は？

- ◆小学校での公演を見に行った。その時の子どもたちの表情やその光景を見てグッときた。「わあ、いいな。このメンバーに入りたい！」と思ってクラブへ。どんな形で出会いがあるかわからないと思った。
- ◆30年ぐらいになる。途中仕事や介護で来れない時期もあったが「待ってるから！」といわれ今も続いている。きっかけは子どもが園に行っている約2時間「なにかしたい！」で入部。
- ◆同じ園に通っているママから誘われて。子どもが公演を見て目をキラキラさせるのが魅力。
- ◆他クラブに入っていたが、進められてあひるにも入部。「作る」ことが得意なので製作部長。クラブ員一人一人が素晴らしい。
- ◆15,6年となる。子どもの同級生のママから誘われ、みんなで作り上げる楽しさ、充実感がいい。



作曲担当だが、必要に迫られて…でもそれが良かったと思う。

◆講座をしている時から知っていたが仕事があり断念。仕事場で公演があり、きっかけができた。退職後、念願のクラブへ！人生が楽しい！

人形劇を作り上げていく過程で、また公演を通じて感じたこと



◆市内・市外と訪問をして公演をしますが、それには「蹴込み（けこみ）」を持参します。これがないと人形を動かす人が見えてしまいます。初代のけこみは公民館の自助具グループ貝塚の方に製作してもらいました。大変重宝していましたが、長年使っていることや、重くて移動が大変なこともあり今回新しいものを作ることにしました。しかし、お金がふんだんにあるわけでもなく、また自分たちの希望もあるので、知り合いのつてで、山手地区公民館の木エクラブの人に頼み、素晴らしい「けこみ」を作ってもらいました。公民館を通じて、いろいろな人と繋がりを持って、その人たちに支えられて今の私たちの活動があります。

◆東日本大震災後しばらくして、ボランティアはできないけれど、旅行に行ってお金を使おう！ということになりました。たまたま東北で幼稚園の先生をしている知り合いに連絡したところ「人形劇を幼稚園でして！」となり、道具一式を持参で行ってきました。

2012年5月に訪問し、4か所で公演を行いました。少しでも子どもたちに喜んでもらいたいに行ったのですが、私たちのほうが元気をもらって帰ってきたようです。この子どもたちの笑顔が消えないよう、未来への希望が持てるよう、私達大人がしっかりしなければと思いました。快く受け入れて下さった学校、幼稚園には感謝しています。

◆人形はもちろん手作りですが、オリジナルの台本もあり、当然音楽も音も自分たちで作ります。そんな中でクラブ員はみんな一から作り上げる楽しさや苦しさを乗り越え、人を喜ばせて自分も輝いていくことに共感し、いつしか「人形劇あひる」が大切な自分の居場所になっています。それでも、公民館がなければこのようには続いていませんでした。公民館活動の原点だと思っています。

◆ズバリ「生活の一部」です。

◆最近は対象を子どもから大人まで広げています。大人が見ても心が洗われますよ。



しゃべり場★公民館とは

平成24年3月に開催された3連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。

◆◆◆◆ 今後の予定 ◆◆◆◆

★1月13日(火) 13時～15時 中央公民館

ゲストスピーカー 藤谷 ゆき子さん

(貝塚学習グループ連絡会代表・あこーる♪)



みなさんの
ご参加お待ちしております！

しゃべり場★REPORT No. 14

<お問い合わせ>

中央公民館 433-7222

浜手地区公民館 431-0926

山手地区公民館 446-0090

今年度

春からの「しゃべり場★公民館」では、「第2回貝塚公民館大会」の4つの分科会のDVDを観ることから始まりました。その時の感想で「もっとこの話が聞きたい、あの人やこの人にこのことを聞きたい。」と盛り上がりしました。

そこで！今年度のテーマを「個人のライフヒストリーから公民館の歴史を聞いたり、活動の広がり学ぶ場とする」ことにしました。公民館に来たきっかけや、そこでの人とのつながり、学びを聞くことで今の自分たちにできることを探すきっかけとなれば素敵なことだな、とも思っています。

さて何人のライフヒストリーを紹介できるでしょうか！

8月18日（月）14時～15時半 中央公民館・講座室

佐々木裕子さん（子育てサークル→ファミリー劇場・子育てネットワーク、民生委員 他）

～ 佐々木 裕子 さん 紹介 ～

佐々木さんと公民館の出会い、現在20才になる長女を子育て中、中央公民館で活動する子育てサークル「のんたん」に入会したのがきっかけでした。子育てネットワークの委員になって人と繋がることの喜びを知り、それからプレイパークやファミリー劇場へ。公民館以外でも子どもの幼稚園や学校でPTA役員を務めるなど、子どもの成長と共に佐々木さん自身の活動も広がり、現在は麻生中の民生児童委員として「麻生中おさんぽかばさん（*1）」や「みつ葉カフェ（*2）」に関わるなど、地域で活動されています。

*1 麻生中おさんぽかばさん

山手地区公民館主催事業である乳幼児をもつ親の交流の場「おさんぽかばさん」終了後、自主活動として麻生中町会館で子育て中ママの交流の場を月1回行っている。

*2 みつ葉カフェ

麻生中のコミュニティカフェ。月1回開催。町会員だけでなく誰でも参加でき、異世代交流の場にもなっている。



佐々木さんがさまざまな活動を通じて感じたこと・これからの思い

◆サークル「のんたん」での活動から、“親の学び”というのを学んだ。今のお母さんたちにも学びの場をもって欲しいと思っているが、会場費や講師料などのお金の問題や、今のお母さんたちは学びよりもおしゃべりをしたいという感じなので、実現するのが難しい。今は見守っているという感じ。でも、月1回の集まりのほか、「みつ葉カフェ」にも参加することでお年寄り若いママの交流の場になっているのは良いこと。

◆年に3回行われている「いきいきサロン」は参加が80才以上の町会員に限られていて、年齢制限があることや町会員のみということに疑問を感じていた。誰でも集える場をつくるのが地域活動ではないか？町会に入っていない人にも来てもらえる町会にならなアカンのに。誰でも来れる場所が「みつ葉カフェ」。



《みつ葉カフェの様子》

たくさんの方が来て楽しそうにお話をしている様子がわかりますね☆

裏面へつづく

佐々木さんがさまざまな活動を通じて感じたこと・これからの思い *つづき*

◆カフェには婦人会の役員をはじめ、地域のおまわりさん、他町の人もある。新しい人も男性も増えてきた。集まった人たちは“地域の話”をしている。つるかめ（中央公民館主催講座「つるかめ大学」）の人も来ていて、その人から話を聞いた人が「公民館へ行ってみようかな～」と言っていた。カフェは公民館の宣伝の場にもなっているんだと思った。カフェでお友達ができた人もいる。参加者も定着してきた感じ。



- ◆カフェは行政も把握していない地域のこと、人のことの情報収集の場だと思う。
- ◆カフェに参加している人から「自分たちがカフェの宣伝をしていかなアカンな」という声が出るようになってきている。
- ◆カフェの主催は婦人会だけど、婦人会員だけでなく婦人会に入っていないボランティアの人にもスタッフとして来てくれている。

◆スタッフは、「誰が」ということもないのに、自分がしないと…と思って自主的に毎回の記録を作ったり、チラシを作ったりしてくれている。自分で自分の役割をわかっているかのよう。これは今までの人のつながりのおかげだと思う。それに自分のできるところを自分の役割と気付くこともすごい。



◆「みつ葉カフェ」は異世代交流ができていることが特徴的で、他の地域カフェとは少し違うと思う。



しゃべり場★公民館って？

平成 24 年 3 月に開催された 3 連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者・職員の立場関係なく『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。

◆◆◆◆ 今後の予定 ◆◆◆◆

★ 10 月 31 日(金) 13 時 30 分～15 時 30 分 中央公民館 視聴覚室

ゲストスピーカー 大谷美代子さん（貝塚子育てネットワークの会先輩ママ）

★ 11 月 17 日(月) 10 時～12 時 中央公民館 講座室 2

ゲストスピーカー 中央公民館クラブ 人形劇あひる さん



みなさんのご参加お待ちしております！

今年は

◆春からの「しゃべり場★公民館」では「第二回公民館大会」の4分科会 DVD を観ました。その時に聞いた話は「もっとこの話が聞きたい、あの人やこの人にこのことを聞きたい。」で盛り上がりました。そこで今年のテーマを「個人のライフヒストリーから公民館の歴史を聞いたり、活動の広がり学ぶ場とする」にしました。公民館に来たきっかけや、そこでの人とのつながり、学びを聞くことで今の自分たちにできることを探すきっかけとなれば素敵なことだとも思っています。さて何人のライフヒストリーを紹介できるでしょうか！

◆7月4日（金）13時～16時 中央公民館・講座室

松岡美代子さん（ファミリー劇場から NPO 法人、民生委員、みつ葉カフェ他）

・松岡さんと公民館との最初の出会いは昭和60年貝塚ファミリー劇場（S57 設立）の運営委員になったことからです。

その後を簡単にあげてみます。

- ・S61「地域で考える教育講座」を受講し、その後「めだかグループ」（自主グループ）を立ち上げる。
- ・S63 子育てネットワークの会に参加するとともに「公民館白書」づくりに参加。
- ・H4「貝塚学習グループ連絡会」発足に参加（めだか・色えんぴつ・あけぼの・豊かな老後をめざす会）

- ・H6 ママヘルパー事業開始（有償）
- ・H9「第1回公民館大会」学連で参加
- ・H12「街かどデイハウスあいあい」開所
- ・H13「貝塚安心して老いるための会」NPO法人認証
- ・H17「貝塚安心して老いるための会」居宅支援事業開始
- ・H22「貝塚安心して老いるための会」退会。オカリナ・ヨガ始める
- ・H23 麻生中民生・児童委員委嘱。校区福祉委員会に参加。おさんぽかばさんに関わる。
- ・H24 麻生中「みつ葉カフェ」開始
- ・H25 麻生中婦人会に入会。
- ・H26「みつ葉カフェ」婦人会の事業となる。

◆上記の活動の中で学んだことは・・・

ファミリー劇場

- ・自分の子どもと一緒に活動する楽しさ。
- ・よその子どものことも考えている人の存在。
- ・学ぶことの大切さと楽しさ。
- ・組織づくりの楽しさ、どう危機を乗り越えるか。
- ・文化活動の果たす役割の大きさと大切さ。他

めだか

- ・ボランティアの意義と大切さ。
- ・保母さんとの出会いの中で子どもとの接し方。
- ・お互いの夢を共有、形として実現していく楽しさ。
- ・保育士、家庭児童相談員など専門家との出会い。
- ・活動を示すことで行政に働きかけ、協力し合う関係づくりをつくる大切さ。

あっという間の3時間でした。さまざまな活動をしている松岡さんですが、お話を聞いていて、謙虚でいて芯のぶれない考え方が活動の源かも・・・と感じました。

街かどデイハウスあいあい

- ・話すことを受け止め、話の輪を広げる。
- ・生活の基本の衣食住の大切さに気付く。
- ・残っている力をどう引き出し、楽しむか。
- ・高齢でありながら「あいあい」の組織づくりに力を注ぐ人との出会い。

「老いる会」訪問介護事業

- ・介護はボランティアでは担えない。
- ・優しさは強さ。
- ・事業所としての経営省力・膨大な事務量をこなす力。
- ・どんなケースにも対応できる学習（困難な人も OK）
- ・NPO だからできる仕事（社会からの信用）

地域へ

- ・地道に地域のために働いている人の存在。
- ・横に繋がりにくい体質。
- ・男性中心の町会、福祉委員会、その他の運営。
- ・肝心なことが話あわれていない会議（大切なことが積み上がってない）
- ・地域に女性の視点と話あえる場づくりが必要。

これからは

公民館活動を経て、地域や学校などへ活動の場を移し活躍されている人たちとの「しゃべり場★公民館」を開催する予定です。開催日が決まり次第HP・ポスターなどでお知らせします。

しゃべり場★公民館って？

平成 24 年 3 月に開催された 3 連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない利用者職員の立場関係なく『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。

誰でもいつからでも参加できます。



団体やグループの説明

※貝塚ファミリー劇場：1982 年「公民館ファミリー劇場」として産声を上げ、1987 年に正式に発足した。親子で生の舞台を観賞することを中心に、子どもたちの自主性・創造性を大切にしている。

※貝塚子育てネットワークの会：1998 年公民館主導で始まり、2 年後市民が主体となり運営している。親同士が繋がることで子育ての孤立感や不安を解消する仲間づくりや学習の場。

※めだかグループ・豊かな老後をめざす会：貝塚学習グループ連絡会の中のひとつのグループ

※街かどデイハウスあいあい：在宅の虚弱または家に閉じこもりがちな高齢者の自立生活を支えられるように既存の施設を利用して、住民参加により楽しく集える場所の提供

※みつ葉カフェ：ふれあい喫茶。主催団体は麻生中婦人会とボランティア

参加者の感想や意見

・松岡さんの公民館活動は、ファミリー劇場から始まりネット、老いる会、ついには NPO まで時々の課題に次々とエネルギーを取り組んできた、その豊富な体験は何人分の人生に相当するのでしょうか。

・口調はとても軽やかでいて、力強さがありました。それは徹底的に人と関わってきた体験やなによりその人柄に多くの仲間を引き寄せ、繋ぎ、大きなエネルギーを生み出したと感じました。

・つどい、学び、結ぶという公民館の理念を丁寧にたどってきたと感じる。

・立場立場で出来ること、出来ないことがある。今やりたいこと、楽しいことを精一杯やればいい！少人数でもできることから行動し、それを示すことが大切だと思った。

・公民館を活用している人が地域に行った時は、自分たちの活動を地域に伝えることが大事。持って行く活動は手段であって、相手がどんな生活・人生を送っているか、普段はどうしているか、など話を聞いて触れ合うことが交流となる。その交流から得られるものは多い。

・公民館活動を活発にしている人たちが、それを地域に広める力をどうつけていくか。また公民館がそのことをどう発信していくかを考えていく必要がある。

・「しんどい人には黙っていてもいい、こうしようと思わなくていい。ただ寄り添ってあげるだけでいい。」

・地域で素朴に働いている人たちがいる。また一方で公民館で学んでいる人たちがいる。この間を取り持つ、または埋める人たちを探すのは公民館の仕事。

・公民館活動から地域へ帰ってみるとかつて公民館で共に活動していた人たちがいた。そこから地域の活動が発展した。繋がれることの大切さ。

・NPO でないとできない仕事がある。受け手、働き手にとってのいい方法がある。

・会議で肝心な話が流れてしまう。そんな時は肝心な事を見分ける力、それを会議で言い出す勇氣が必要。仲間がいれば、比較的言い出しやすくなる。また会議では具体的な数字が見えるようにすることも大事である。

・公民館は公民館利用者をうまく活用して小さなアクションを起こすようにすればよい。

松岡さんとのしゃべり場終了後の話し合いでは、活発な意見交換がされ、この誌面に書ききれないほどの感想や意見がでました。それらの一部を抜粋して書き出しました。



今年は

◆春からの「しゃべり場★公民館」では「第二回公民館大会」の4分科会 DVD を見ました。その時に聞いた話は「もっとこの話が聞きたい、あの人やこの人にこのことを聞きたい。」で盛り上がりました。そこで今年のテーマを「個人のライフストーリーから公民館の歴史を聞いたり、活動の広がりを学ぶ場とする」にしました。公民館に来たきっかけや、そこでの人とのつながり、学びを聞くことで今の自分たちにできることを探すきっかけとなれば素敵なことだとも思っています。さて何人のライフストーリーを紹介できるでしょうか！

◆『遊び隊』のライフストーリー/6月6日(金) 10時半～11時半 中央公民館・創作室

☆ ライフストーリー第1弾。地域に出かけて活動を始めた人の話を聞こう！ということで中央公民館で活動をしているグループ『遊び隊』としゃべり場を行いました。19名のメンバーのお話を聞くことができました。

活動を継続できる理由は？

◆子どもを相手にしていて煩わしいと思ったことはない。なぜなら「自分が楽しまなくちゃ！」と思っているから。◆ハサミやホッチキスが普通に使える子にしてあげたい。手を取り教えたり、寄り添って見守ったり。今の忙しい親が出来ないことをしているのかな？◆忙しいのは良いこと。心も体も健康です。◆遊び隊はみんなと話し合えて、学べて、幸せな場所です。◆子どもがニコッと笑ってくれるのが嬉しい。自分の生きがいである。◆高齢者施設の訪問も、同じ年くらいの人と話できるのが嬉しい。施設に行けるのも遊び隊に入っているからこそ。遊び隊に入ったから色々なことを知ることができる。◆今では子どもの為より自分の為になっている。◆遊び隊の予定が入ると、風邪をひいたらいけないと気をつける。健康管理になっています。



◆ライフストーリーいろいろ

●奥さんを早くに亡くし、9歳と4歳だった子どもを一人で育ててきた。仕事、仕事で地域とのかかわりがなかった。世間の人と話をすることもなかった。仕事をやめたら、百姓がしたいと思い、貝塚へ来た。いろんな活動することで自分自身成長できた。遊び隊は「いいいの場所」

●今の私の生活の大部分は公民館活動に携わっているといっても過言ではないと思います。遊び隊に入ってから、嬉しいことは子どもたちが作ったおもちゃで一生懸命遊んでくれて、大事に持ち帰る姿がなんともいえない。公民館まつりで、お母さんに「遊び隊さんは、いいことされていますね」と言われてとても嬉しくなりました。遊び隊の活動で外に出て隊員と一緒に作業をし、子どもたちと触れ合っていて心身ともに健康が保たれていることも実感している。遊び隊の活動はかっこよく言えば「社会貢献」「地域への還元」になっていると思う。

●最近の話。近所に引っ越してきたばかりの兄弟がいて、まだ友達もあまりいないようだった。外で兄弟げんかをしているのに気がついて、「紙ヒコーキをあげる」と言って、一緒に遊んだ。翌日、「もっと飛ばす紙ヒコーキを作って」とやって来た。その翌日もボールを持って一緒に遊ぼうとやって来た。その後も「おばちゃん、遊ぼう」と言いに来るようになって一緒に遊ぶようになった。遊び隊で覚えたおもちゃを作ってあげようと思う。もっと飛ばす紙ヒコーキも作ってあげないと。



『遊び隊』って？

遊び隊は「あそび隊」と「折り紙グループ」からなります。あそび隊は「つるかめ大学あそび隊」と公民館講座の「遊び講座」終了メンバーを中心に平成 20 年に発足。折り紙グループとは、平成9年に結成した「つるかめ折り紙」があそび隊と一緒に活動する機会が増えるなかで共に協力して活動を広げようと平成24年に加わり、その際に全体の総称を「遊び隊」としました。貝塚市内を中心に派遣依頼に応じて、保育所、幼稚園、小学校、福祉施設、子育て中のグループ、地域などへ出かけて昔あそびの伝承や身近な材料で手作りおもちゃと一緒に作り、人と人とのふれあいや繋がりを大切に活動しています。平成25年度は44回の活動をしました。特に近年は貝塚市を中心に近隣の市にも遊び隊の名前が知れ渡り、右肩上がりに派遣依頼が増えています。

デイケアハウスでの活動



小学校の学童保育での活動



地域のまつりでブースを出店

参加者感想

- とっても前向きに活動をされている。皆さんとても考え方が前向き。
- 遊び隊の人達はボランティアをやっている、やってあげていると思っていない。
- 相手の喜びが自身の喜び・楽しみになっている。
- 自身の趣味と活動が合致していること、自分の楽しみが根底にあるから活動が続けられると感じた。



しゃべり場★公民館って？

平成 24 年 3 月に開催された 3 連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない。利用者職員の立場関係なく『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。
誰でもいつからでも参加できます。



これからは

公民館活動を経て、地域や学校などへの活動の場を移し活躍されている人たちとの「しゃべり場★公民館」を開催する予定です。開催日が決まり次第 HP・ポスターなどでお知らせします。

しゃべり場★REPORT 2014. 6 発行

<お問い合わせ>

中央公民館 433-7222

浜手地区公民館 431-0926

山手地区公民館 446-0090

No. 11

しゃべり場☆公民館って？

平成 24 年 3 月に開催された 3 連続講座の後、有志の間で公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない！利用者職員の立場関係なく、『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し、始めました。誰でもいつからでも参加できます。

今回はさまざまな「初めて物語」を集めてみました。

今回は「初めて物語」として、公民館とかかわったきっかけについて書いてもらったり、聴き取りをさせてもらいました。さまざまな「初めて物語」おもわずクスリと笑いがでたりウソウソと同意してみたり、楽しみながら読んでいただけたらと思います。また、みなさんの「初めて物語」を思い出しながら、改めて公民館との関わりを思い浮かべてください。



「しゃべり場ができた背景」

「3 連続講座」があつてできたといわれているが、それは「きっかけ」にすぎない。公会堂時代から今に至る中央公民館。浜手地区公民館、山手地区公民館とそれぞれの歴史が下敷きとなっています。

しかし、長く続いている公民館ならどこでも「しゃべり場」ができるというわけでもありません。そこには「学んできた市民」がいて、それと共に歩み、寄り添い、助言し続ける職員集団がいた（いる）という土壌があるから「3 連続講座」をきっかけにできたのです。



B さんの場合 ～公民館は「人生のクスリ」です～



公民館にお世話になって 30 余年、たくさんの出会いがありいろいろな生き方に触れることが出来ました。

自分とは違う考え方や感性の違いに驚いたり、感心したり。たくさんの発見がありました。いいことも、悪いこともすべて含めた公民館でのあれこれは、自分自身が成長するための栄養であり、また社会で生きるためのいいクスリでした。

公民館活動の始まりはクラブでした。会社を辞めて家業に就いていた頃、英会話が安く勉強できる「公民館」なるものを広報で知りました。気の小さい私は恐る恐る電話。ところが職員は予想外に気さく、親しみのもてる対応に安心して早速申し込みました。

クラブの雰囲気は想像していたものとは全く違い、自由で家族的。あまりの居心地の良さにハマってしまいました。クラブの人達が暖かく受け入れてくれたおかげだと思い今でも感謝しています。

元来お調子者の私はクラブの代表委員、役員、そして委員長と利用者団体活動にのめりこみました。夜毎の公民館通い、いわゆる「公民館族」でした。何をやっても楽しかった公民館まつり。研修会では夜を徹しての語り合い。青年グループ活動では配偶者にもめぐり合う。もちろんいいことばかりではなく、いい加減なやり方で周りに迷惑をかけたり、意見されてふて腐れたり、考え方の相違に戸惑うことも多々ありました。今思うとすべては「学び」です。成長の糧になりました。こういうことは後になってわかるものなんですね。

これからの公民館は地域と積極的につながるべきでしょう。多様な人を受け入れ、学びの場を提供し、また地域にも出かける。そういう仕掛けをたくさん作る。そのためにできることを、微力ながらも一人の利用者として地道にやっていこうと考えています。公民館への恩返しです。

私にとって公民館は生活の一部です。これからもよろしく。



「公民館大会・分科会をDVDで見よう」終了！

2月15日、400人を超える参加があった第2回貝塚公民館大会。終了後、公民館には参加した方からの「他の分科会も見なかった」という声、残念ながら参加できなかった方からの「たくさんの方が来たんだって？行きたかったなあ」という声が届いていました。

そこで！しゃべり場で記録用に撮影していた分科会の映像上映会を企画し、いろんな人に参加してもらえるよう場所や時間を選定し、ポスターやチラシを配って参加を呼び掛けました。

第1分科会「私の人生をかえた公民館」

3月25日（火）13時～ 山手地区公民館（視聴覚室）

第2分科会「若者から高齢者までつなげようリレートーク」

4月11日（金）10時～ 中央公民館（視聴覚室）

第3分科会「公民館って魔法の・・・」

4月14日（月）13時～ 浜手地区公民館（講座室）

第4分科会「地域とつながる公民館」

4月25日（金）19時～ 中央公民館（視聴覚室）

しゃべり場☆公民館

あの公民館大会を見逃した人・聞き逃した人に朗報です！

公民館大会・分科会をDVDで見よう

公民館大会・分科会を再び体験！！

「他の分科会も気になるけど・・・」とあきらめたあなたへ。

申込みなしで参加できます。

気になるテーマの日にそれぞれの公民館までお越し下さい。

- ◇ 3月25日（火曜日）13時より 山手地区公民館（視聴覚室）
第1分科会「私の人生をかえた公民館」
- ◇ 4月11日（金曜日）10時より 中央公民館（視聴覚室）
第2分科会「若者から高齢者までつなげようリレートーク」
- ◇ 4月14日（月曜日）13時より 浜手地区公民館（講座室）
第3分科会「公民館って魔法の・・・」
- ◇ 4月25日（金曜日）19時より 中央公民館（視聴覚室）
第4分科会「地域とつながる公民館」

※いずれもおおよそ2時間ぐらゐを予定しています。

「しゃべり場☆公民館」ですが、あまり「しゃべり」ができないかもしれませんが・・・が、お気軽にご参加ください。

平成24年3月に開催された「しゃべり場☆公民館」から「公民館でのいつもの活動をどうしていくか、もっと具体的に考える必要がある。それは職員任せではなく、利用者も一緒に考えていこう」と公民館利用者と職員が立場関係なく、共に企画して行っています。誰でもいつからでも参加できます。

お問い合わせ
中央公民館 433-7222
山手地区公民館 446-0090
浜手地区公民館 431-0926

参加者感想

- ・公民館に来ることで自信ができる、というエピソードが良かった。
- ・子育て中のお母さんは悩みをもっているのだと知った。そんな人たちが公民館で悩みを解決している。
- ・公民館は人の生きがいになっているんだと知った。
- ・若い人がどのような活動をしているか、また考えなどの話も聞けて良かった。
- ・公民館に来続けるといろんな人に出会え、何かをするときに力になる。
- ・公民館活動を地域に持って行きたいが、勇気がいる。活かすことが難しい。今後の課題だ。
- ・公民館の魔法の正体を今後も追及したい。
- ・公民館に専門職員がいる意味、位置付けが大事だと思いました。
- ・しゃべれなかった人がしゃべれるようになるという、ドラマチックな変化が見られた。



- ・公民館大会を通じていろんな人と知り合えた。これからいろんな人と知り合って余生を過ごしたい。
- ・公民館は魔法の館。

- ・話せる場ってやっぱり公民館。
- ・公民館大会に参加できなかったので、とても興味をもって見られた。
- ・パネラーの方の思いが自分と同じだと思った。男性が公民館に来るヒントになる話が聞けた。



- ・公民館大会で、利用者同士が話せる場、個人に光が当たる場、そういうのができて良かった。
- ・公民館は人をつなぐ場所だと改めて感じた。

- ・それぞれの分科会で、違う視点で公民館が語られていて良かった。
- ・公民館と市民との共同事例をもっと発信していきたい。
- ・地域に還元というのは難しいが、自分のできる範囲でやっている。
- ・ひとつひとつが公民館と関わって自分が成長した、などの具体的な話で、とても聞きごたえのあるものでした。
- ・様々な人が様々な形で公民館に関わっている事がわかった。
- ・「地域とつながる公民館」は人がいてこそ。



〇さんの場合

公民館に関わりもう22年。私は貝塚で生まれ育ち20歳で結婚しました。その後10年は堺市に暮らし、貝塚に引っ越してきて22年が経ちました。

引っ越した当初は、自分が育った町なのに母となり子育てするのになぜか違和感があり、親子共々友達がなく、近所の公園でも遊ぶ親子が少なく、寂しくて心細い毎日を過ごしていました。そんな時、たまたま駅前で見た「親子体操さくらんぼ」のポスターが目に入り、当時3歳だった3番目の子どもと入会しました。

「さくらんぼ」は中央公民館主催「子育て講座」の受講者により発足した親子体操や外遊びをする自主グループです。そこで公民館と深く関わることになり、貝塚子育てネットワークの会、貝塚ファミリー劇場、学習グループ連絡会、冒険遊び場プレイパークなど様々な活動を続け今に至っています。

毎日公民館へ通っていたので、近所の人から「公民館で仕事しているの？」なんて言われていました。

職員さんからもアドバイスやら支援をいただき、とても多くの人との出会いと多くの経験をさせていただきました。夫婦だけではしんどい子育ても様々な人との出会いが私の子育てを助けてくれました。普通の主婦にはできない経験もしました。PTA役員など積極的に様々な活動に取り組むことで学び・成長もあり、人生の幅が広がりました。公民館に出会っていなかったらどんな人生を送っていたんだろうと思うことがよくあります。

人との出会いがこんなに素晴らしいと思える今の私があるのは、公民館での学びがあったからだといえそうです。



Ｔさんの場合 ～乳幼児サークル編～

貝塚に来て2年。主人の転勤で上の子が生まれてから2度引っ越しをしました。

貝塚に来てすぐ、上の子は環境の変化からか外出したがなくなりました。「お友達を作らなきゃ」と焦っていた時に子育て支援センターで出会った先輩ママにサークルを紹介してもらいました。

最初は子どもを預けたり、良い意味で子どもから距離をおくということができませんでしたが週2回同じメンバーで活動していく中で、子どものことをお願いできるようになりました。

今は下の子中心で、サークルに参加していますが、下の子の妊娠、出産時期もたくさん助けてもらい、この出会いには本当に感謝しています。



もうひとりのＴさんの場合



貝塚に来たのは、かれこれ25年くらい前。それまでは大阪市内で40年間商売をしていました。当時は姑の目もあり、遊びに行くための外出なんてあり得ませんでした。

25年前、娘夫婦と一緒に住むことになり、貝塚へ引っ越すことになりました。貝塚へ向かう道中の列車から見た風景に四季の移り変わりを目の当たりにし、涙したのを、今でも覚えています。

当時していた習い事の先生が公民館のクラブを紹介してくれ、入部しました。公民館に来ると楽しい。職員の方々ははじめ、集う方々はみんな明るい。子どもたちの元気な姿が見れるのも嬉しい。今はクラブの役員の他、公民館主催事業「ロビーコンサート」の企画委員もしていて本当に毎日のように公民館に通っています。現在80歳。隣の市の老人大学やいろいろな講座などにも通い、まだまだ学びたい！と思える今がとても楽しいです。



Ｉさんの場合 ～公民館中毒～

仕事を卒業したら何をするのか考えないまま定年を迎え、数字からの解放と自由な時間ができたことを喜び、朝寝坊と散歩を日課にして日々を楽しんでいました。

そんな変化のない生活も2,3か月過ぎると飽き、女房殿の鋭い眼差しが気になりだした頃「公民館にでも行きなさい」の一声で広報に載っていた講座で「公民館デビュー」をしました。

元来、人見知りで当初は遠慮をしながら、無言で講座を聞いていましたが、いくつかの講座を受けるうちに仲間も出来て、参加する事が楽しみとなり、今では女房殿から「公民館族」と言われるまでになりました。

昨年6月に2週間の手術入院する事になり、小学校に派遣依頼を受けている活動に使う材料を病室に持ち込みました。手術後、身体が動くようになった途端、ベッドに材料を広げ、書いたり切ったりしている姿に看護師が呆れていました。そんな時にどうしても受けたい講座が退院予定日の2日前にあることを思い出し、なんとか早く退院できる方法はないかと考え、一計を案じて主治医に「私が行くのを50名からの子ども達が楽しみにしているので明日退院させて下さい」と虚偽の嘆願をしました。しびる主治医も私の名演技(?)に「無理をしない事」を条件に許可を出し、家族の強烈な批判を受けながら晴れて退院しました。その日の午後、講座を受けている「公民館中毒」の私がいまして。

Nさんの場合 ～乳幼児サークル編～

結婚して他県から貝塚に住んで8年が経ちます。貝塚に来てすぐにパートを始めましたが、近所で話す人もなく、友だちもできなくて「地元に戻りたい。」と思いながら5年が過ぎた頃、子どもが生まれました。

毎日慣れない子育てで、子どもは可愛いのですが、同じような悩みがあるママと話がしたい、子ども同士で遊ばせたいと思っていた時に「子育てナビゲーション」で見つけた施設へ勇気を振り絞って行ってみました。

子どもはおもちゃで楽しく遊んでいましたが、親は仲のいいママ同士で話をしているので、私は居づらくて・・・

それでも2、3回は通いましたが「ほかに子どもが集まる場所はないかな？」と思っていた時に近所の人からサークルに誘われました。

息子はまだ1歳だったので「サークルで公園で遊びます」と聞いて、砂でドロドロになるんじゃないか？

砂を食べるのではないかな？滑り台は危ない。など不安な気持ちのまま参加しました。

衝撃でした。

ママたちは怒らず笑っている。

息子はみんなと楽しそうにドロドロになって遊び、ママたちは私にすぐ話かけてくれて楽しい一日だったのでサークルに入ることに決めました。

今ではママたちといろいろな話をして発散し、息子は夏はパンツ一丁、冬は鼻水を垂らしながらもいっぱい遊んで強くなり、最年長になった今では、下の子と遊び、幼稚園に入る前からいろんな体験ができてサークルに入って良かったとすごく思います。

貝塚市はすごく子育てに力をいれてる町なので良かったです。今では貝塚から離れたくないです。



「どうして公民館に来るようになったんですか？」と公民館ロビーでインタビューしてみました。

★京都の繁華街に住んでいましたが、夫が定年後の第2の人生で田舎暮らしを希望し、貝塚の東山に引っ越してきました。住みやすい街ですが、私は車に乗れません。公民館が近くにあり、何か習ってみようと思い、今のクラブに入りました。皆と楽しく過ごさせてもらい、夫も中央公民館のクラブに通っています。ただいま、第二の人生を公民館で満喫しています。



★貝塚に嫁いできて、公民館クラブに入り、以前にも活動協議会の役員を何年もしたが、また数年前より役員をしています。お世話をするのは大変ですが、誰かがしないと公民館活動ができなくなると思い、できる間は・・・と思って役員をしています。

★昔、公民館は第一中学校の北側で、今ではマンションが建っている場所にありました。その当時から公民館と関わっていて、いろいろな教室に参加してきました。

★定年後、泉南の方に引っ越してきた。それから貝塚の施設でお世話になり、初めは野菜づくりをしましたが、作物ができて、誰も食べる人がなく、作っても喜んでくれる人もなくてやめました。

絵か字を習ったらと思い、近くの公民館に来ました。また健康づくりで、身体を動かすクラブにも入っています。動ける間はみんなのために働こうと思っています。

★PTA コーラスを卒業して誘われるまま公民館のクラブに入りました。最初は利用者連絡会の定例会などが煩わしいと思ったりしていました。委員になり、役員になり「公民館とは」何かということを勉強し、それまで無料で（部屋を）利用していたことは当たり前ではないということを知りました。

公民館はそれまで関わりのなかった方と知り合え、楽しい場所です。今利用されている方の何人が公民館が大変な局面に来ていると知っているのでしょうか？利用者一人ひとりの意識が高くなければ公民館は難しくなっていくと思います。

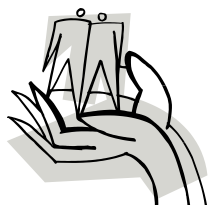


いかがでしたか？

今回はいつものレポートとは一味違うものとなりました。

いろいろな人の「初めて物語」は公民館の大切さをあらためて感じさせます。

また、機会があればこのようなレポートをみなさんの協力のもと、出していきたいと思っています。



ス々の 出張しゃべり場開催！

パート① 山手バンド連絡会 編

2013年11月3日(日) 15:00~17:00

「公民館で若者の姿ほとんど見かけないよね。」「今の若い子たちはどんな事を考え・求めているんだろう？」など、これまでのしゃべり場でもしばしば若者の話題が出ていました。今年度第1回目のしゃべり場でも、若者をテーマに取り上げ開催しましたが、「もっと多くの若者と話をしたい!」・・・ということで、山手地区公民館で活動しているバンド連絡会のメンバーとのしゃべり場が実現しました。

山手のバンド連絡会って？

- ・発足は山手地区公民館の開館と同じ平成3年
- ・現在は中学生～社会人まで7つのバンドが所属
- ・地域の中学や高校に声を掛け、年3回程度ライブを開催
- ・月に1回会議を開催

大切にしていること・これからの目標

バンド連でイベントをする時はみんなで作り上げていく。一般的にありがちな「来て、演奏して、帰る」ではなく、ステージ作りから片付けまで、出演者みんなで協力して作り上げることを大事にしている。今考えているのは“外へ音を出す事”。活動を知ってもらうためにも、貝塚各地で野外ライブをしたい!

中学生に聞きました!

Q.『なぜバンド連に入ったの?』

- ・バンド連の企画したライブに参加してよかったから。
- ・雰囲気良かった。
- ・学校とは違う楽しさがある。
- ・もっとバンド連の人と交流したいと思った。
- ・バンドが好き。もっと上達したい。



ぜひ、
ライブ・会議
に遊びに来て
ください!!

バンド連に聞きました!

Q.『公民館に来たキッカケは?』

- ・家の近くにあって、図書コーナーがあった、卓球ができた、バンドができる、そんな感じかな。

Q.『公民館は敷居が高いと思う?』

- ・「敷居が高い」というのとはちょっと違うけど、きっかけがないと来ないと思う。

Q. 公民館について

- ・自分は公民館をよく利用しているが、家族はあまり使っていない。
- ・無料で音楽室を使えるから、中学生や高校生が来られる。
- ・公民館の音楽室にはドラムなどの機材があって助かっている。
- ・バンド連を運営するのも、他の公民館クラブと同じような悩みがある。例えば会議に出席しない、ライブの時演奏だけして帰る、など。

そういうことがあると、そのグループの活動時に訪問して話をしている。みんなが気持ちよく使用するには、公民館のこと・バンド連のことをキチンと説明することが必要だと思う。

Q. 社会人メンバーの中には「中学生の時から」とか「公民館と共に23年」という人も!『なぜそんなに長く活動が続いているの?』

- ・気が付いたら〇〇年経ってたって感じ。
- ・自分の居場所が「公民館」にあった。

Q.『小さい時に公民館へ来ていても、大きくなると来なくなるのはどうしてだと思う?』

- ・小学校時代は卓球や図書コーナーがあるから来るけど、中学生とか大きくなると公民館に興味あるものや来る目的がないなあ。
- ・公民館に引き止めるものがないと思う。

—おさらい— しゃべり場★公民館って??

平成24年3月に開催された3館連続講座を聴いて、公民館でのいつもの活動を、これからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある!それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない!利用者、職員の立場関係なく、『公民館』を語るところから始めよう!と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。

出張しゃべり場開催！

パート②中央公民館「ホッとワーク」講座編

2013年11月26日(火) 10:00～12:00

きっかけは「ホッとワークって知ってる？」「なにそれ？」「中央公民館の講座なんだけど・・・」「知らないな」との会話から。講座は 1993 年「視覚障がい者のための教養講座」という名前で始まり、2008 年に「視覚障がい者のための講座ホッとワーク」2009 年「ホッとワーク」と名前は変わりましたが、長年続いている講座の一つです。今回はこの講座へ出張し前半は共に防災の講座を受け、後半でグループに別れて「しゃべり場」を行いました。

「ホッとワーク講座」って？

視覚障がいをもつ人を対象に公民館で活動するクラブ等の協力を得て、陶芸・料理・ちぎり絵などを実施する。この講座が、受講者の地域へ出かけるための一歩として果たすことを目的にしている。また講座を通して、障がいを持つ人の理解を深めるための交流の場となることを目指している。年間 10 回講座。基本第4火曜日午前中



防災の講座を受けてのしゃべり場！

- ・家の中は避難リュックを用意したり、家具転倒防止の器具をつけたり、階段に手すりやすべり止めをつけてある。また寝る時には枕元に着替えを用意しているなどの工夫をしている。
- ・いつも持って出る鞆の中には保険証・薬の一覧や病院での最新の検査結果を入れている。
- ・窓ガラス飛散防止シートを購入してあるが、貼ってもらえる人がいないので、そのままである。
- ・とても不安である。
- ・「要援護者」に登録しているはずだが、避難訓練時には誰も助けに来てくれなかった。個人的に町会長に言えばよかったのか？
- ・「要援護者」支援の訓練をしてほしい。
- ・できることは「手伝いたい」と思うけれど「邪魔になる」と思って言い出せない。
- ・AED の使い方を 3 回聞いた。応急手当などできることはある。避難訓練時に一緒に練習すれば周りも「できる。まかせられる」とわかってもらえるのではないかな。
- ・多くの制度があり、勉強した。
- ・「自分のことは自分で」と思っている。
- ・視覚障がいには種類がある。それを理解してもらいたい。そのためには健常者とのふれあいの機会が必要。普段の行事と一緒に参加することが増えたらいいと思う。

今年度のプログラム

「体力測定」「ハーモニカ演奏を楽しむ」「料理」「ゆび編み」「ちぎり絵で干支をつくろう」「陶芸を楽しもう」「防災講座としゃべり場」「1 年のふりかえり」など

しゃべり場で聞きたい話！

- ・震災以降、声をかけてくれる人が増えた。十字路で止まっていたら「どちらの方へ？」、また小学生は「じいちゃん、どっちや？手ひいたるか？」と声をかけてくれる。
- ・「なんかあったら、迎えに行くからね！」と言ってくれる人がいる。そんな関係をつくるのが大事。
- ・自分たち（視覚障がい者）も手伝いたい。できることはあると思う。
- ・杖を振っているときは迷っている時。そんなときは声をかけてくれたら助かる。嬉しい。
- ・私の物は勝手に触らないでほしい。見えないのでわからなくなる。
- ・「右です。左に置いてます。」など右、左が入るとわかりやすい。
- ・地域で頼れる人がいるので助かっている。
- ・白杖をつくまでには長い時間がかかった。「自分は障がい者です」というようなものだから勇気がいった。でも、一度使えば、今では逆に知ってほしいと思うようになった。その方が互いに楽になる。

第3回

今年もしてます!! 「しゃべり場★公民館」

昨年からはじまった市民も職員も、公民館に来たことのある人もない人も、誰でも自由に参加できる「しゃべり場★公民館」。2年目の今年は、テーマを決めて話していこう! ということで、7月まで毎月1回のペースで開催しています。今回は貝塚市を飛び出して、枚方市生涯学習市民センターへ出かけてきました。

枚方市の生涯学習市民センターって?

かつて「枚方ターゼ」と呼ばれ、全国的に注目された枚方市の社会教育。公民館の取り組みも活発で、エネルギーに溢れていました。

時代は流れ、平成18年10月、市民の幅広い学びを支え、その成果を生かしながら行政と市民の協働のまちづくりを推進するため、教育委員会内に置かれていた公民館を総合行政部門に移し、名称も「公民館」から「生涯学習市民センター」に変更しました。貝塚市とは運営形態が違う枚方市。数年が経過した今、変更したことによる成果と課題について伺ってきました。



「枚方ターゼ」とは?

昭和38年「枚方市における社会教育の今後のあり方」をまとめて提示したもの。

社会教育とは「主体は市民である」「国民の権利である」「本質は憲法学習である」「住民自治の力となるものである」「大衆運動の教育的側面である」「民主主義を育て、培い、守るものである」とし、「枚方ターゼ」と呼ばれ全国的に注目されました。

成果と課題

※平成23年2月枚方市「生涯学習推進体制の再編の検証と今後の取り組みについて」より

成果

- ・利用対象者の拡大により、市民の多様な学習活動に利用されるようになった。
- ・開館日・利用枠の拡大により、市民の活動機会が増えた。
- ・広く低額の使用料を求めることで、施設の改修や備品購入を行い学習環境を維持。
- ・市民が事業の企画に関わることで、多様な市民による事業が展開されている。

課題

- ・運営体制の充実。
- ・利用対象者・利用枠の拡大に見合うだけの利用が少ないため、認知度の向上が課題。
- ・施設予約システムの申込時期や利用時間枠の再検討。
- ・良好な施設機能の維持のため、活動に必要な備品の整備と使用料の徴収のあり方について検討。
- ・他部局と連携して社会的課題や地域課題に関わる事業の拡充を図ることが必要。
- ・活動委員会（利用者・市民等で構成）の充実、活動委員会内での職員の役割。

質疑応答より

- ・公民館から生涯学習市民センターへ再編する時、「市の直営でなくなるのではないか」という声や、使用料有料化に対する反対の声があった。
- ・市民と職員で構成する活動委員会内での職員の役割・関わりは事務的な関わりになっているのが現状。
- ・文化的なものは比較的できているが、社会的な課題や地域の問題については取り組むのが難しい。
- ・優先予約期間の見直しや、利用率の低い夜の時間帯の利用率向上の仕組みが必要と思っている。

—おさらい— しゃべり場★公民館って??

平成24年3月に開催された3館連続講座を聴いて、公民館でのいつもの活動を、これからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある!それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない!利用者、職員の立場関係なく、『公民館』を語るところから始めよう!と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。

視察を終えて

枚方市の生涯学習市民センターへの再編は、利用対象や利用枠の拡大、子どものみに開放する場所の確保、有料化しても子どものみの団体などには減免制度を設けるなど、良い面もありました。一方で、行政部局との連携や地域課題に取り組む難しさを感じ、教育委員会内に属する公民館の大切さ・役割を再確認できた機会となりました。

参加者感想

- ・ 機会があれば、枚方市がこうだったと市長に報告して、貝塚の公民館のことを知ってもらいたい。
- ・ 枚方市の利用者に有料化のことを聞いたら「大したお金じゃないからいい」とあっさり言っていたのが残念。
- ・ 教育的手段でないと、まちづくりは進まないと感じた。
- ・ 職員とぶつかったりケンカしても、一緒に泣いたり喜んだりしながらつくる貝塚の公民館っていいな、と改めて感じた。

公民館が公民館で在り続けるために ー貝塚の公民館の「今」と「これから」を考えるー

- ・ 一部の人だけが利用しているというのではなくて、公民館での学びは「まちづくりにつながっている」というところを、もっと訴えていかなければ。
- ・ 市長や公民館職員が替わっても、公民館をずっと使ってる利用者の力が必要。みんなが1つになって、一緒に理解・認識をもたなければならぬ。
- ・ 行政は地域のことを知らない。公民館が地域で見たことを伝えて、行政がつながることが大事。



「何を学ぶか」ではなく、「何に向かって学ぶか」が大事。地域をつくる学びを公民館でしないといけない。行政とも連携する事が大事。

「学んで、つながって」は公民館だから経験できること。

自分たちの趣味の中でやってるだけでは、新しいものは生まれない。



- ・ 貝塚のクラブの中にも「自分の好きなことをしに来てるから、ちょっとぐらい使用料を取ってもいいよ」という声がある。公民館利用者は、クラブだけでなく、高齢者や小さい子どもを連れた人も来ている、ということを知ってもらいたい。みんなのことを見れるクラブ協議会にしたい。
- ・ 中央公民館は、貝塚公民館の中心となる館でありながら、自由に使えるホールや体育館がない。ロビーも狭いし、場所もわかりにくい。
- ・ 公民館は教育委員会下でないと、社会教育的な考え方は出来ないと思う。縦割り行政下では横のつながりもない。

◇◆◇地域活動紹介◇◆◇

地域の問題に気付いた人たちが公民館に集まり・考え・活動しています。その取り組みを地域へ広げ、問題解決するにはどうしたらいいか？と悩んでいる人たちがいます。

こういう活動を行政や地域の人にも知ってもらいたい。情報交換できる場、みんなで地域の事を考える場を求めています。

貝塚プレイパーク

子どもの遊び場がない。公園があっても禁止事項だらけ。そんな地域の大人たちの『気づき』の中から生まれ、ボランティア活動により運営。禁止事項を極力設けず、自分の責任で自由に遊ぶということをモットーに年4回開催されています。本当は、身近にある公園で、子どもたちが伸び伸びと遊べるようになれば一番だと思っています。

貝塚の知恵袋

貝塚にはいろんな団体がある。でも個々に活動していて横のつながりが少ない。どうしたらみんなが連携して活動できるのか？町会館をもっと活用して、どんどん地域へ出かけていこう！と考えています。

第2回目

今年も！してます「しゃべり場★公民館」

昨年からはじまった市民も職員も、公民館に来たことのある人もない人も、誰でも自由に参加できる「しゃべり場★公民館」。2年目の今年は、テーマを決めて話していこう！ということで、7月までは、毎月1回のペースで公民館に関するいくつかのテーマをもとに、開催しています。

第2回目 25年6月20日（木）午後1時～3時 会場：中央公民館 視聴覚室

テーマは「文化の力で立ち上がれ！（戦後）復興の願いが生んだ公民館」

話題提供者：上岡 兼千代さん（貝塚商工会議所会頭）

「公民館が貝塚にできて、今年で60年だと聞くけれど、どうやってできたのかな？」

「公民館ができる前は、みんなどこで活動してたのか？公民館ができてから活動が始まったのか？」

「誰か知ってる人はいないのかな？」・・・「あの人なら！」と名前があがったのが上岡さんでした。

今回は戦後の混乱期と公民館創世期を生きてこられた上岡さんに話題提供者として協力してもらいました。

上岡さんは除隊後、昭和21年津田小学校に勤務以来、教育・文化の領域で活動され「貝塚むかしばなし第1集～第3集」などの著作もあり、85歳の現在も会社経営をはじめ産業経済とさまざまな分野で活躍されています。

公民館が必要ではないか？

ならば みんなで陳情してみよう！

★上岡さんいわく

「兵隊から帰ってきて、津田小学校、その後第2中学校に勤務」

「終戦後はみじめな有様（ようす）だった。」

「大変なこの時代」を紛らわすことを考え出した。

俳句・短歌・邦楽・舞踊・茶華道など十数個の同好会が自然にできた。それらの活動は主に、学校の空き教室・役所の部屋・消防署や個人の家で活動をしていた。

↓
「公民館、いるよね！」
↓

みんなで話をし、当時の北野市長へ陳情した。

社会教育法が昭和24年6月に公布され、補助金などの制度も活用し、昭和28年に公会堂との併設で貝塚公民館が第一中学校ちかくのマンションが建っている場所にできました。

★思い出話 面白かったのは・・・

－エピソード1－「やみじる会」

「俳句の同好会は、当時消防署の部屋を使っていました。

冬の時期に14～20人が自宅より食材1品を持ち寄り鍋をします。いわゆる『やみ鍋』です。電気を消して、暗闇の中、自分がとった食材を題材にして、俳句を作りました。」

－エピソード2－「ひょうたんが繋ぐ縁」

「いろんな同好会との繋がりもありました。ひょうたん加工の上手な人がいて、その人が持参したひょうたんに、短歌同好会が作った短歌を書き写す人。そのひょうたんに木工クラブが上手にツメを作って完成したものがこれです。」と上岡さんは懐かしそうにそのひょうたんを見せてくれました。



しゃべり場★公民館って??

平成24年3月に開催された3館連続講座を聴いて、公民館でのいつもの活動を、これからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない！利用者、職員の立場関係なく、『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でも、いつからでも参加できます。

◆上岡さんの話を聞いて印象に残ったものは？

◆ 何か、何か！の精神

- ・出兵もされた上岡さん。まもなく戦争が終わり何も楽しみがなかった時代。「何か、何か！」と渴望する中、俳句会を結成。それに端を発していろんな同好会が結成されていった。そしてその活動場所として公民館建設を市に陳情に行き、願いが叶えられて公民館ができた。

◆ 欲しいと手を伸ばして手に入れる楽しみ

- ・戦後みじめな紛らわしい世の中でも、「楽しみたい」と手を伸ばし、手に入れた楽しみ。共通の楽しみ（同好会）で集い、学び、語る。そこは本音で語り合え、仲間と繋がっていく場所。それが公民館。

◆有名な句碑があるのを知っていますか？

公民館で俳句の活動をしているときに有名な俳句の先生が講師として来てくれていました。「公民館だから」「そこで活動しているから」と、とても協力的でした。

その講師の名前は、山口草堂先生です。

公民館創立 25 周年（昭和 53 年）を記念して建てられました。今も市役所近く「レストラン雅苑」の前（道をはさんでいます）にひっそりと佇んでいます。

かかはりなく刻む 春陰の時計

意味は上岡さんいわく「一刻一刻を大事に生きていこう生まれた時から死出の旅」だそうです。近くまでお越しの際は、探してみてください。すぐにわかりますよ。



山口 草堂
(やまぐちそうどう)
1898—1985
昭和時代の俳人
明治 31 年 7 月 27 日生まれ。水原秋桜子に師事。昭和 6 年「馬酔木(あしび)」に参加。大阪馬酔木会をおこし、10 年「南風」を創刊、主宰。生きる証(あかし)としての俳句を提唱した

※公民館創立 25 周年の記念に

写真の句碑の他に、歌人安西冬衛の詩碑も建てられました。

◆上岡さんからみた「公民館のこれから」

- ・公民館とは住民の教養のため、良い生活をするため、健康であるため。この 3 つのキーワードの館。間口はとても広い。これからは、いかに公民館を使いこなすか？
- ・今は新しい文化に古い文化が押されている。時代と共に人の気質が変わっていく。「今、何が一番必要なのか？」この世の中に欠けているものを公民館活動で行えばいい。文化を担う。公民館活動に生かすことを考えてみたらいい。



◆それぞれの感想や公民館について思うこと。

・終戦直後の精神的なものがうかがい知れる。当時は生活と文化が非常に近かったのではないかと。日々の暮らしに文化が根付いていたと思われる。「欲しい」エネルギーがあって、公民館ができてのは素晴らしいことだ。

・昔、上岡先生の話聞いた。今回懐かしく思い参加した。みんなと支え合って、生きている限り前向きに生きていく。公民館はそんな場所である。

・公民館へは「いいお話があるから、連れて行ってあげようか？」と声をかけられたのがきっかけ。子育てで一生懸命生きてきた。気が付いたら「自分を育てる」ことを忘れていた。今は自分育て中。公民館は学びと共に、人間関係の絆を作る場所。

・初めて参加しました。貝塚に越してきてまだ日も浅く、地名もよくわからない。今日の先生の話聞いて貝塚を歩いてみようと思いました。

・時代と共に（公民館が）変わっていくのはわかる。自分たちの欲求を満たしてくれる＝公民館だと思っていた。が、そうではなくて市民が欠けていることについて考え、それを公民館活動として見ていきたいと思う。

・昔：求める公民館 今：求めさせる公民館

・子育て時代に公民館と関わりができた。今公民館は生活に余裕がある人が集まっていると言われがちであるが。。。違うな。

・学校教育は法律がある。社会教育にはない。今こそ社会教育が大切だと伝える。千石荘跡地を市民を含めた、モデルとして活用していきたい。

・文化を伝える、それを果たすのも公民館の役目の一つ。細く長く続けていくことが大切。時代に合ったものはなにか？を考えることも必要。

しゃべり場★REPORT No. 7

25年度 第1回

今年もやります！！

「しゃべり場★公民館」

昨年からはじまった市民も職員も、公民館に来たことのある人もない人も、誰でも自由に参加できる「しゃべり場★公民館」。2年目の今年は、テーマを決めて話していこう！ということで、7月までは、毎月1回のペースで公民館に関するいくつかのテーマをもとに、開催していきます。

25年5月31日(金)午後1時～3時 会場:中央公民館 視聴覚室

「若者と公民館」

話題提供者:馬場則彦さん(元ヤングフェスティバル実行委員長)

「町だけでなく、公民館に来る人も高齢化が進んでいるよね？」

「高齢だから」を理由に役ができない、クラブの運営が大変という話はよく聞かれます。「若者がもっと出入りしていたらいいのに」、「高齢者だけの公民館?」、「子どもが出入りしている館はいいよね」、「そもそも若者って公民館に来たい?」、「若者に魅力のある公民館ってどんなの?」など、これまでのしゃべり場の中でもしばしば若者のことについて話が出ていました。

そこで、第1回のテーマには「若者」を取り上げました。昼の時間に若者は来るのか? 若者のいない中で若者を語っても意味がない…と心配しながらの開催でしたが、貝塚ファミリー劇場(*)の中高青部で活動している大学生と青年が来てくれました。(2人は幼い頃からファミリー劇場の会員で青年になった現在も活動しています)

若者の主張!!—公民館編—

・子どもの頃は引っ込み思案だったけれど、ファミリー劇場の活動を通じて、自分の意見を言ったり、人と話をして関わることが自然とできるようになっていった。

就職活動の時の面接でも、物怖じせず、自分を表現できたのは、このファミリー劇場があったからだと思う。

・「学校の中の常識が、社会の常識じゃない」と思っていた。ファミリー劇場の中にはありのままの自分を受け入れてくれる居場所があった。

・公民館にいる大人は世間の大人よりやさしい。怒る時も理由がわかるから、納得できる。

・「公民館」というと堅いイメージ。敷居が高く感じる。なかなか入りにくい。ファミリー劇場があったから公民館を利用したけれど、それがなければ公民館には来ていないかも。

*ファミリー劇場の活動の中で「自分たちのやっている活動はまちづくりにつながっている」という意見が青年からあった。自分たちの活動の意義を感じている。

(*) 貝塚ファミリー劇場は、子どもたちに心豊かな人に育ってほしいという願いから30年前に「公民館ファミリー劇場」として立ち上がりました。舞台芸術の鑑賞と自主活動を中心に、子どもが生き生きできる活動を会員による自主運営で行っています。またキャンプや「こども市」などの子どもが企画運営する体験活動の中で、自主性や創造性も育んでいます。



—おさらい— しゃべり場★公民館って??

平成24年3月に開催された3館連続講座を聴いて、公民館でのいつもの活動を、これからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある!それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない! 利用者、職員の立場関係なく、『公民館』を語るところから始めよう! と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。

次回のしゃべり場★公民館は…

次回は公民館を飛び出して、他の市の状況を見にいけます。公民館が教育委員会から離れ、市役所の一部署となり「生涯学習市民センター」として運営している枚方市。どのような活動がなされているのか学べます。

7月1日(月) 午前～午後

行先:枚方市役所・生涯学習市民センター

*事前申し込みが必要です

*詳しくは各公民館へお問い合わせください

◆馬場さんからの話題提供 —30 年前の公民館での若者の活動—

◆ヤングフェスティバルとは

1980年代、公民館が企画する講座に集まった若者を中心に自主活動が進み、リーダーが育成されていき、「若者にとって魅力的な企画をたてて活動していく」ため、自分たちのやりたいことを追求し、他の若者のやりたいことと結び、企画、開催していった。そんな中で何か大きなイベントを、ということで「ヤングフェスティバル」が実施された。スタッフが 140 人にもなり、プログラムは映画会、泉州地区高校対抗コンテスト、ロックコンサート、模擬店というものだった。現在のフレッシュサウンドコンテストもここから出発している。



毎日公民館に出入りする中高生がおり「ただいま」と言って公民館に帰ってくる。学校や地域では味わうことのできない充実感を仲間との連帯感を生む活動に感じていた。

◆ふれあいDECEMBERとは

青年講座の参加者の中に障がいをもつ人がいたり、ヤングフェスティバルに関わった青年の兄弟に重度の障害をもつ人がいて、彼らの話し合いの中に自然と障害者の問題を理解しようという雰囲気があった。その中で手話サークルや作業所などに呼びかけ、青年を中心としながら障害者問題をテーマに集いをもつようになり、映画会やコンサート、手話、一日共同作業所（作業所見学、車いす体験を「ふれあいDECEMBER」として実施した。

◆若者の学習活動

イベント作りだけでなく、会議の中で青年の周りに起こる様々なことについても丁寧に話し合い、学んでいた。たばこの問題をみんなで話し合って「いいことではない」と確認すると、みんなでやめよう、と決意する。そして本当にみんながやめた。悪い習慣をみんなの理性で乗り越えた。「自分は中学の時好きに生きてきた。自分で自分を規制することなど、生まれて初めてだ。以前の自分だったらできなかった」と言っている。

◆集まってきた若者ってどんな子？

これらの活動は、学校が好きではない子が集まっていた。学校という教育体系に組み込まれた内容から遠くなった彼らを惹きつけたのがこの集まり。ヤンフェスでは「男一匹ガキ大将」「生徒諸君」など当時の人気漫画をみんなで読み合った。その中身を語り合い、生き生きとした。語り合うこと＝自分を語ること。自分の語ることとメンバーの語ることを突き合わせ、改めて自分を見、他のメンバーを自覚する、という楽しさをマンガを媒介に持ち合った。「勉強だけできる子より、やんちゃな子の方がいい」、「学校は共食い、競争の場。ヤンフェスは楽しいことを楽しい連中と一緒にやる場」と言っている。

■なぜ、若者が活動できた？

- ・ 娯楽のない時代、クラブをしようとやってきた。
- ・ 自由に使える談話室で食べたり・飲んだりしながら、オープンな雰囲気がある居場所があった。
- （仕事を終えてくる人に、コーヒーやカップ麺、パンを用意し、お金を箱に入れて自分で作って食べる）
- ・ 自分の興味があるものに惹かれ、自分のことだけをしに来たが、公民館に来たことで職員の働きもあって世界が広がった。
- ・ 会議やイベントなどで自分を出せる場があり、失敗しても職員がいたから、安心して思い切りできた。
- ・ 若者に熱くつきあう職員がいた。
- ・ 周りの大人も最初は批判的に見ていたが、頑張る姿をみて応援するようになり、つながりが広がっていった。若者のエネルギーに期待し、必要な存在として認めていた。



◆報告を受けて —これからの公民館と若者—

- ・ 若者は、仕事や地域を出るなどで離れていく。その時に後の世代につなぐのが難しい
- ・ 公民館から離れていても、公民館の活動の様子がわかるような発信（インターネット等）を行っていけばいいのでは？
- ・ 公民館に来なくても個人で楽しめる娯楽があふれる中で、公民館に来ようと思うのはどういう時か？
- ・ 若者は大人になった時に継続して活動しているか？地域で活動したいときに中心になる人がいない。かつて公民館で学んだ人が、地域で力を発揮するという状況になっていないのでは。
- ・ 若者が若者を呼ぶ。そういうつながりをつくるには？
- ・ 貝塚には児童館がない。その役割を公民館が担える。

—公民館の中で若者が活動する姿は周りにも元気を与えます。公民館で活動する他の若者グループにも話を聞くなり、今後もこのテーマを深めていきたいと思います。

しゃべり場★REPORT 総集編 No. 6

2013. 03. 19発行

＜お問い合わせ＞

中央公民館 433-7222

浜手地区公民館 431-0926

山手地区公民館 446-0090

発起人メンバーのコトバ

昨年3月に3館連続講座を聴いて、「公民館に集う者どうしがもっとつながりたい!」という想いで始めたのが、この「しゃべり場★公民館」です。場所を移したり、時間帯を変えたり、あるいは活動されているところへ発起人メンバーでお邪魔したり…。さまざまな形で「しゃべり場」を開催してきました。開催を重ねるごとに、たくさんの方との出会いがあり、さまざまなライフストーリーがあり、そのお話に感銘や刺激を受けたり、また時には涙することもありました。

貝塚の公民館はとても活発に活動を続けていますが、全国的には公民館は衰退の一途を辿っています。貝塚公民館が今のまあり続けるためには、「あってよかった公民館」を実感している私たちが、そのことを発信することが必要なのではないかと、思っています。この4月からの「しゃべり場★公民館」2年目は、折りしも貝塚公民館60周年にあたります。この60周年で「しゃべり場★公民館」から何か発信できたら、と思っています。(貝塚子育てネットワークの会 朝日 陽子)

～出張しゃべり場★こんな話が聞けました～



◆山手地区公民館利用者 対象◆(活動協議会定例会終了後) 2月4日(月) 午後2時～ 山手地区公民館

- ・公民館は人生勉強になり、年を忘れる。人のつながりがいい。家では味わえない交流の場がある。気取らない雰囲気。 ・自分の能力に気づき、高まっていくことが楽しい。
- ・違う年代の人と交流でき、一緒にいて安心感がある。 ・感謝が出てくる活動。
- ・学ぶことがなかったら自分もない。山手のホールはこの近辺では一番使いやすい。

公民館で習ったことを、車がなく公民館に来られない人へ伝えている。社会の仕組みが変わり、一人暮らしが増えている。学校教育も家庭教育もなっていない現状の中、自分たちは社会教育で(公民館で)できることをする。それが出来る公民館は大事!

・子どもが小さい頃、親子講座で公民館に来て、退職後、今ではクラブに参加。長い人生で関わる事ができる場所。

◆地域(町会)と公民館とのつながりを感じることはありますか?

- ・山手の開館時に職員が地域をまわって声を聴いて歩くなど頑張っていた ・公民館で得たことを町会で活かしている。
- ・館の職員に声を掛けられて童謡を歌いに三ツ松団地へ行った。校区の銭太鼓クラブとしても活動している。 公民館と町会の仲介、地域と人をつなぐ役割=職員と感じた。
- ・山手は地元の人利用が多く、あったかい雰囲気が3館の中で一番好き。肌が合う。山手の人はつきあいがよく、公民館祭にも近所が誘い合ってたくさんの人が見に来る。
- ・町会、老人会(長生会)、婦人会、青年団、子ども会に参加するのは地域の1/3程度…社会の形が変化している。自分の力ではできないことが増えてくると、楽しみがなくなり、子どもや社会のことより自分のこと、になってしまっている。
- ・地域で支える場、受け皿がない。近くに寄る場所を作る⇒町会館を開ける⇒町会の会館維持の問題があるが、きっかけがあればできる。才能の目が出るけれどそれをどう作っていくか。



◆貝っ子フェスタ実行委員会 対象◆ 2月19日(火) 午前10時～12時 中央公民館

◆各自の活動紹介をしてから…各グループの活動や地域で子育ての話へ。

- ・活動場所が違う人のつながり。顔を出すことはいい。非常時にも役立つ。
- ・集団に属したがない親が多い、働く親が増えている。⇒会員減少が課題になっている。
- ・先輩との温度差を感じるが、1人より10人で10人の子どもを見る方がいい。乳幼児は泣くもの⇒ひとりで悩まないでいい。
- ・お母さん同士、幼稚園では挨拶、世間話しかできず、つながらない、本心は話せない。しかし言える場所が公民館にはある。スーパーで泣き叫ぶ子どもを取り巻く大人の目線が冷たい。こういうことを見守れる地域でありたい。
- ・はだしの活動は敬遠されがち。⇒身体全体で遊ぶ大切さを。

⇒これから決めることがたくさんある。その前に皆を知りあうことは大事! 嬉しい日になりました!



- ・初めから、貝っ子フェスタと公民館祭を一緒にが目標。
- ・「学び」⇒サークルっていいね。話をする、どうしたらいいかと悩み考え合うことも⇒「学び」
- ・子育ての相談をしあえるサークルがあるのは、今の人は恵まれている。

◆このしゃべり場の落としどころはどこへ持っていくのか?
これまで、多くの声を聞いてきたしゃべり場★公民館。この先を考える意見も出ました。利用者と職員、一緒に何が出来るか考えていきましょう!

～原点に戻り★「公民館ここがいいよね!」「こんなだったら、もつといいのに!」～

◆全ての方 対象◆ 2月19日(火) 午後1時半～ 中央公民館

- ・山手、浜手…学生、子どもが多いのはいいとこ。悪ガキの名前も覚えてる。年寄ばっかの施設じゃなくて子どもが多いのはいい。
- ・初めての人が知らない。必死に活動していた時は、周りが見えてなかったな～と振り返って思う。
- ・クラブの利用者さんもずっと一緒やから、高齢化率は高い。
- ・公民館の守っていかなあかんところと新しくしていくところを見極めて、大事に。
- ・30～40代男性の利用は少ない。働き盛りのお父さん向け⇒物理的に勤労者は無理。難しい。
- ・「話を聞かないと成長しない」という元気なつまかめ大学のおばあちゃんの話若いお母さんにも聞いてほしい。
- ・声掛け・呼びかけが大事! しゃべれないけれど、話していくことって大事。自分が楽しいから、良さを伝えて誘える。
- ・子どもが、「手作り」を好きになった。何かを好きになるきっかけの場所になっている。
- ・敷居の低さがいい。公民館に来る人っていいな。ほっとする。逆に友達は敷居が高いと言う。でも学んだことは生活に生きている。昔と違って、「自分でせなあかんから、辞めていく」人もいる。辞めた人の理由もあるから、線引きは自分で。
- ・子育てサークル学習会で相互保育をして学ぶ場をもてる



◆全ての方 対象◆ 3月4日(月) 午後1時～3時 中央公民館

石井山 竜平先生(東北大学准教授)や
堀内 秀雄先生(和歌山大学名誉教授)も参加!

◆堀内先生からの言葉

「市民と二人三脚でやっているところは、貝塚特有。」
「宣伝も、職員だけでは限界がある。市民自身が宣伝していつて。皆が宣伝塔になったらいい。人からの誘いが一番」
「平場で議論することができる…今日のような公民館体制が成り立つところは他ではそうない。過去でも初めての試み。」
「市民みんなで支えること…共同学習である!」



⇒トラブルやもめごとを皆で考えた
⇒人間関係を学ぶ
⇒もめごとを考えていく

「量より質」
⇒求めるいい企画を!

◆石井山先生からの言葉

「人を広く来させるより、ピンポイントの分野に深く」
「タダほど、コワイものはない。尊いものはない」だからこそ、大事にするものがある!
・受益者負担論が進む中で…
「貝塚市全体を見て、公民館がどんな位置づけになるかという視点が大切。」
⇒つながりができることが、コミュニティ強化の効果がある
「60周年誌に向けて、40周年誌・50周年誌を読み込み、分析・提案して、歴史を知ること大切では。」



公民館でのいつもの活動を、これからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある!それは、職員任せではなく、利用者と一緒に考えなければいけない! 利用者、職員の立場関係なく、『公民館』を語るところから始めよう! と公民館利用者と職員が共に企画して始まった「しゃべり場★公民館」。

1年が経つ節目に、発起人6人の感想を掲載します。

発起人の感想

🍎しゃべり場★公民館の発起人の一人として、何度かしゃべり場に参加してきましたが、私自身が公民館とは何か、よくわかっていませんでした。ただ単に、クラブの活動場所という感覚で利用していました。もちろん、知らない方とも友達になり、利用者連絡会の役員にもなり、それなりに楽しい充実した公民館でした。しゃべり場で皆さんのお話を伺っているうちに、公民館へ足を運んで利用されている方々は、前向きでイキイキとしていて、自分を少しでも高めたいと思っているのがよく感じられました。子育てで悩んでいるお母さん達は、同じ悩みを共有できる方と知り合い、安心して子育てができたという話にも、本当にそうだと思います。必要な方に公民館はあると感じました。利用者が市民の一部でしかないという現実には仕方ないと思いますが、中学生・高校生・20代・30代の若者の悩み解決の場所となれるような公民館になるとすばらしいと思います。人が集うことで、それが学びとなっていくと思います。(平成24年度浜手地区公民館利用者連絡会 秋本 道代)

🍎『しゃべり場★公民館』を始めて、利用者の方々の声を聞けば聞くほど、公民館という場所は市民の生涯学習の場なんだなと感じています。それに気づかずに利用されている方も、この『しゃべり場』で話すことによって、公民館の大切さをあらためて感じているように思います。

そのひとりひとりの想いが繋がれば、公民館を拠点にみんなのパワーが発信され、益々明るく元気な貝塚になるのでは?と、思っています。そのためにはどうすればいいのか?が今後の課題ですが、5月には中央公民館まつりがあります!まずはそこから、みんなのパワーを発信していきましょう!!

(貝塚ファミリー劇場 天野光代)

平成 24 年度 しゃべり場 開催一覧

回	日時			場所	対象	参加数
1	6/26(火)	13 時半～15 時半	昼	中央	全ての方	27
2	8/2 (木)	19 時～21 時	夜	中央		14
3	9/25(火)	10 時～12 時	朝	山手		12
4	11/1(木)	10 時～12 時	朝	浜手		10
5	11/30(金)	10 時～12 時	朝	山手	子育てグループ・団体・講座受講者	19
6	12/11(火)	19 時～21 時	夜	中央	中央公民館利用者	11
7	12/17(月)	13 時～15 時	昼	浜手	浜手地区公民館利用者	11
8	1/28(月)	10 時～12 時	朝	中央	つるかめ大学受講者	21
9	2/4(月)	14 時～15 時半	昼	山手	山手地区公民館利用者	24
10	2/19(火)	10 時～12 時	朝	中央	貝っ子フェスタ実行委員会	16
11	2/19(火)	13 時半～15 時半	昼	中央	全ての方	19
12	3/4 (月)	13 時半～15 時半	昼	中央		19

これまでのしゃべり場テーマ

■今日、ここへ来たのは…？1 分間自己紹介

■あなたにとって公民館はどんな場所？－あってよかった公民館－

公民館に最初に来たきっかけは？

公民館ってどんな場所

初めて公民館に来た時の印象は？

公民館でこんなこと学びました！

あなたにとって公民館で活動するグループの存在って何？

公民館で、こんな活動を目指しています

私の人生、公民館で変わりました

地域への発信活動とは？

自分たちのグループ・活動紹介

■利用者、職員、私たちにできること

公民館の課題って何？

公民館が有料になったらどうなる？

公民館は、悩みを話せる場所になっている？

公民館で活動するってどういうこと？

公民館が地域へ出かける意味って？



しゃべり場の決めごと

1. いつからでも参加できます
2. 人の話を聞くだけでも OK !
3. 話せないときは、パスもあり。
4. トイレは自由に

* 発起人の感想－職員編・その 1－*

🍎「語る」ことから信頼関係を築くことができるということを、このしゃべり場の実践を通して学んでいます。それは、日常生活全てにおいて共通することではないでしょうか。公民館を皆の財産にしていくには市民の声が大切だと感じています。「利用者も職員も一緒に考えていこう」と歩み寄りあえる関係であるこの「ししゃべり場」から、子ども～高齢者まで何歳になっても成長し続ける皆さんのストーリーや思いを、来ることができない人やまだ利用したことのない人、町会など地域へも伝え、発信していきたいと思います。
(山手地区公民館 真砂悦実)

🍎このししゃべり場のいい所は、市民、職員の立場関係なく、自由に話ができること！

顔を知っているだけの人、挨拶だけだった人が、どんなきっかけで公民館に来たのか、そこでどんなことがあったのか…公民館をどんなふうに考えているのかなど、この機会に初めて聴いた話がたくさんありました。中には、公民館での出会いやそこでかけられた一言で、人生や生活が変わった人も少なくありません。公民館での出来事の拡がりには驚きも感動も満載です！
(浜手地区公民館 桑原 知子)



聞く力・語る力・共感し学び合う力

講師：石井山 竜平さん(東北大学大学院 教育学部研究科准教授)

貝塚公民館55周年フォーラムでご講演いただいた石井山先生。

平成26年2月に開催予定の60周年フォーラムでもお話いただく予定です。

それに先立ち、今回は、先生が実践されている「状態調査」(*)の手法やその活動を通じて学ぶこと、復興に向けた被災地での地域づくりの様子をお話いただき、公民館の役割や貝塚の地域づくりについて考えました。



高齢化に伴う、生活の変化、子育てへの不安、介護への向き合い方…これからの地域のあり方が問われる今、「語る」、「聞く」、「共感する」ことから「学び合う」力が、地域を拓くキーワードになっていくのではないのでしょうか？

■危機の時にどれだけ語れる市民がいるか

—岡山市の公民館行政部局移管に伴う住民運動—

公民館が、教育機関から安心安全の拠点となる行政機関へ移管する話が出されたときに、市民も職員も反対した。そこでは、市民から「なぜ公民館は教育機関として必要なのか。地域に必要な学びができたのは、公民館が教育機関だったから。」ということが語られた。ピンチの時に、市民から語られる言葉があるだろうか？それは、日頃の公民館活動の中で作られていく。

■日常の変質をとらえ、潜在化した要求を聴いていく

—宮城県仙台市三本塚地区「明日の三本塚を考える会」による要望書—

津波の被害に遭い、仮設住宅、民間借り上げ、従前地での居住と分散している人々が、今、何に悩み何を考えているのかを聴きあう活動に取り組んだ。そこで出されたのは「生活再建施策の拡充と当事者提案の実現へ向けての配慮」、「現地の安全」、「仙台平野の農業を守り発展させていくための学習機会の要望」だった。行政の中で地域といえば「町会」を意味するので有志では聞いてもらえないということから「町会名義」で提出するなど、自分たちの目指す再建案を自分たちで作り届けるといった動きが起こっている。

■状態調査では語ってもらった人から「ありがとう」といってもらえるような聴き方、学ぶ姿勢で聴くようにしている。この経験で聴く側も成長していく。

*状態調査とは

こちらの「聞きたいことを聞く」のではなく、「語り手」が感じていること、話しておきたいことを自由に語ってもらい、「一番聞いてほしいこと」を洞察し聞き当てようという考え方。そのために「良い聞き手」となるには、「語り手に学ぶ」という姿勢が求められます。

⇒地域にある可能性を見つけ、地域の宝を発見していこうというもの。

⇒聞きあうことによって、互いの信頼関係を築きながら地域の課題や生活課題を明らかにしていくこと



■語りにくいけれど大事なことや、共通することを聴きあう。互いが互いの愚痴を聴きあう、聴く・語る、の中で積み重ねていく、それが社会教育。

* 発起人の感想—職員編・その2—*

🍎クラブ活動で、子育てから高齢者までが「学び」と自己実現を目指し、公民館で集います。しかし、「なぜ、公民館に来たのか」「こうして変わった」「こんな学びがあった」といったことを、話をする機会がなかったり、他の活動を知らなかったりします。この1年のしゃべり場で「自由に話をしよう」で進めてきましたが、60年を迎える今年は、もう一歩前に進めればと思います。また、こうしたしゃべり場が、地域で、公民館以外の行政で行っていきたいと思える先駆的な活動、「しゃべり場」を目指したいです。最後に、「継続は力なり」でずーっと!

(中央公民館 植田年明)

貝塚公民館 60 周年記念事業フォーラム

2014年2月15日(土)

「みんなでつくらう 貝塚公民館 60 周年」

講師：石井山竜平先生

これまでの歴史を振り返るとともに、今後の貝塚公民館について考える機会にしていきます。60周年事業は多くの市民の方と一緒に作っていききたいと思います。ご協力をお願いします。

しゃべり場★REPORT No. 5



毎回様々な時間や場所で開催してきたしゃべり場。これまでたくさんのお話を聴くことができました。「もっともっとたくさんの方のお話が聴きたい！」ということで… 出張☆しゃべり場！

「活動しているところへ出かけて行こう！」「テーマ別でもやってみよう！」ということになり、4か所回ってきました。出かけていくことで、イキイキ活動している皆さんの顔が見えてきました。

あなたにとって公民館は？ 公民館ってどんな場所？
公民館に来たきっかけは？

テーマ：
子育て

◆子育てグループ・団体・講座受講者 対象◆
11月30日(金)午前10時～12時 山手地区公民館

・貝塚に越してきて、友達が欲しいなと思い、子どもが大きくなった時の校区も考えて山手のサークルに来た。

・家で子どもと二人っきりだったので、サークルでのびのび遊ばせている姿を見ていいなと思った。

・上の子が暴れん坊で悩んでいた。サークルに入って生活リズムができ、友達もできた。「悩むことは、生きる力やで。」という言葉が、心に残っている。

・前に住んでいた市も公民館が活発だった。成人対象講座は全て保育付(定員は5名程度で少数だが)で、保育者は高齢世代が担っていた。地域がテーマ(環境や歴史など)の講座によって地域に入るきっかけとなった。他の大人と一緒に参加し、そこでは「誰ちゃんのママ」ではなく、私自身になれた時間が良かった。

・引っ越してくると最初にするのは、何かを探すこと。情報源は…公民館。住んでいる敷地内に赤ちゃんが集まるサークルがあるけれど、まだハイハイするぐらいの子が多く、同年代の子と遊ばせたいと思って、公民館に足を運んだ。

・知らない子がよくない行動をしていたら、「何あの子ー!」って思うけれど、知っている子だと注意できる。親も子も顔見知りが多いと、「みんなで子育て」って感じられて良い。

・公民館に来て救われた。来ていなければ育児ノイローゼになっていたと思う。公民館では、市内の情報ももらうことができる。

・公民館が校区で子育て事業をする時、サークルにも声がかかり、館が地域全体の子育てを考えていることが嬉しい。サークルに入っているだけではわからないけれど、講座を受けたり、委員や代表をするようになって職員との関わりも増えた。

・家が公民館のすぐ近くで、(子どもができたのが遅かったので)早くサークルの中に入りたい気持ちだった。「公民館に行かなくっちゃ!楽しまなくっちゃ!」お母さんじゃないと入れない世界がある。娘のおかげで世界が広がった。

・子育て中、虐待寸前だったと、今振り返ると思う。サークルの仲間がいるなら、3人目を産んでもいけると思った。

こんな
話が出
ました

・サークル代表をされていて、しんどいこともあるが、いろんな人とつながれることは楽しい。新しい人たちに仕事を割り振ることができなくて、自分でやってしまっている。次の代に引き継いでいくことが難しい。「いい人と思われたい」気持ちを捨てたらできる。

・講座で子育てについてたくさん教えてもらい、他の子の様子を見ることで気づけた。公民館がなかったらできてなかった。ネットワーク委員になるのは、地方から大都市に行くようなイメージ。委員になって、自分の意見を言えるのが楽しかった。

次回のしゃべり場★公民館は…

*申し込み不要。当日直接お越しください

どなたでも、いつからでも、
ご参加いただけます!
しゃべり場だけど、
聞くだけでも大歓迎!

3月のしゃべり場には、来年度開催する
公民館 60 周年記念フォーラムでお話
いただく石井山竜平先生(東北大学
准教授)も参加します!

① **2月19日(火)**
13時半～

場所：中央公民館 講座室2

② **3月4日(月)**
13時～15時

場所：中央公民館 視聴覚室

同日開催

聞く力・語る力・共感し学び合う力

東日本大震災後、被災地をまわり、そこに暮らす一人一人に話を聞き取り調査(*状態調査)を中心にお話していただきます。

*詳しくは、チラシ参照。

3月4日(月) 10時～11時半

場所：中央公民館

講師：石井山竜平先生(東北大学准教授)

◆中央公民館利用者 対象(まつり実行委員会内)◆
12月11日(火) 午後7時～ 中央公民館

- ・高齢になると、いろんなことが起こる。子育て、介護、社会のシステム、政治と。また地域のお世話活動とあれもこれも。しかし、どれ一つとして手が抜けない。今回のような場(しゃべり場)は、公民館の歴史ではじめてのこと。画期的。これを広げるには…団体が行き詰っていることは公民館そのものの課題、職員の課題ではないか。全体の組織のあり方の立て直しを考えるということもできるのでは。
- ・公民館クラブの人が地域で中心的に活動している。
- ・10年来公民館に来ているが、互いのことを知らない、まつりがこの知る一つかな。
- ・公民館で学んだことを地域に見える形にする。それを利用者発信で声を出す。一人一人の歴史を知ること。そこから見えるもの。そして協働作業をしていくことを目指しては。



・S57年9月から公民館に来た。公民館には41年活動するクラブもある。

- ・子育て→ガールスカウト→クラブとその時代に応じて公民館で40年、50年活動する。
- ・組織の分岐点であり、理由は高齢化?と考える。今年のまつりの力を活かして。団体の方向性を職員との話でいい方向に進めていきたい。皆の頑張る顔つきが大好き。
- ・公民館の子育てネットワークからNPOができたことは素晴らしい。



■公民館での
その人、その人のストーリー、
自分自身の変化の実感
がお話から見えてきました。

- ・大阪市内で商売をしていたので外の世界とは無縁の生活。四季を感じることもなかった。貝塚へ引っ越してきてしばらくは知り合いの所へ出かけていた。でもご近所の誘いで公民館に来てクラブに入り、今は利用者連絡会の役員や公民館事業の企画委員をしている。公民館に来て友達が出来て気軽に話せるようになった。遠くに行かなくても、自分が住むまちで、毎日充実している。
- ・ここに来たら幸せになる。二色にこうした公民館があつてよかった。最近、結婚してこの地に引っ越してきた子どもを心配して来ていた親が「こんな温かいところがあると知って、安心して、帰れます」と言っていた。感動。

◆浜手地区公民館利用者 対象◆
12月17日(月) 午後1時～3時 浜手地区公民館

- ・浜手のレクリエーション交流で出身県などの話をし、一人ひとりが話せるようにした。30人中3人が貝塚。浜手の特徴かな。今、会議では皆が話ができるように心がけている。→「出身地話」はシンポジウムに活かしている。

- ・ずっとトラック運転手で人との関わりは嫌いだったが、公民館で自分を必要としてくれて人生変わった。因果応報というか、今の自分があるのは、こうした関わりの積み重ね。子育てサークルに頼まれサンタ役をしてきたが、キラキラした子どもの笑顔が素敵で、続けてきた。利用者連絡会の役員もしてよかった。



◆Newつるかめ大学受講者 対象◆
1月28日(月) 午前10時～12時 中央公民館

- ・習ったことが利点となって、地域(町会)に興味がわき始め、学んだことを地域の会合などで伝え、活かしている。
- ・ボケ防止 ・友達が出来た ・若い人より活気がある!
- ・母がつるかめ大学に入っていて、60歳になったら早く入りたいと思っていた。親子で参加していました。
- ・仕事のときは町会とも全く関わりなかったが、定年後、地域のためにしよう!と目的をもって来ている!



- ・他ではできない勉強、「学び」を、公民館でできる。

公民館活動の原点
を感じるイベント

- ・毎週元気に来れる所があるのが幸せ。

- ・3年前から、NEW つるかめ大学になって、皆の意見を聞いて自分たちで企画できることがいい。お楽しみが好きだった人は、辞めていったけど、今のほうがいい!前向きになっている。

- ・「会社を辞めた後は、地域を大事にせなあかんよ。」という会社の先輩の言葉を胸に。



ーおさらいー しゃべり場★公民館って??

3月に開催された3館連続講座を聴いて、公民館でのいつもの活動を、これからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある!それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない! 利用者、職員の立場関係なく、『公民館』を語るところから始めよう! と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。

いろんな人の思いが集まってできている公民館の活動。その活動を地域に活かしている人がいっぱいいることも、見えてきています。

そして、貝塚市のコミュニティの支えとなっています。

61年目からのスタートに向けて、公民館60周年を機に、利用者・職員関係なく、みんなで語って考えていきましょう。



しゃべり場★REPORT No. 4



「できるだけ多くの人に参加してほしい」と、時間や場所を変えて開催してきたしゃべり場★公民館。

「続けていくことが大事」という思いのもと、職員も市民も一緒に話し合いを重ねてきました。毎回継続して参加している人、初めて来る人、何回か参加している人、と様々です。年齢はもちろん公民館の利用歴も、活動の内容も頻度も、考え方も様々な人たちが「公民館にまつわるあれこれ」を出し合っています。

そんな中で、今回見えてきたテーマは…

公民館は、悩みを話せる場所になっているか？

■公民館や職員って？

- ・部屋を貸してくれるだけの人？
- ・自分たちの活動には関係ない人？
- ・公民館は得体のしれない所だった。
- ・育ったまちに公民館がなかったので貝塚に来て公民館を初めて知った。他の市にも公民館はある？どこでも貝塚みたいな活動をしているの？
- ・団体の委員になって初めて公民館の職員の仕事が見えた。職員や公民館のことは、自分の立場が変わらないと見えない。
- ・高齢者、子育て、クラブ…部屋を貸すだけではなく、いろんな人を相手に、いろんなことをしている。
- ・活動のことを職員に相談しても、「それは自分たちで考えて」と言われ寂しかった。

■グループの中の状況

- ・自分の悩みはみんなの悩み、ととらえられる活動が必要。
 - ・ずっと一緒に活動しているはずなのに、他の講座の機会に、初めて同じグループの人の悩みを聞いた。普段の活動が、悩みを話す場にはなっていない？と、がっかりした。
 - ・サークルの中で悩みやつらいこと、自分のことが話せていたのに、今はそれができていない。自分の悩みを話すと、相手に負担をかけてしまうと思っているようで、話せないでいるのかも。
 - ・活動の中で悩みを話せないのは世の中全体が「人に迷惑をかけない」風潮に流れているから？お金を出してサービスを購入することもできる時代だから、サークルにそれを求めている？
- 「そういう時代だから」で片づけていいの？時代が変わっても、やっぱり悩みを出し合える関係は作っていきけるし、大事にしていけないといけなのでは。しんどいことを共有して、情の交流ができ、悩みが話せるようになっていく。



公民館が地域へ出かけるイミとは…

- ・公民館事業としての落語や子育て講座を、地域の会場で実施するというだけではなく、地域の人たちが担い手になって一緒に事業を実施していくことを目指している。町会館を借りる条件整備を公民館がしていくということも考えられる？
- ・市内には公民館は3館。本当は中学校区に1つ欲しいけれど、実現できていない。ほとんど使用していない町会館がある中で、そういう場所を会場に、歩いてこられる距離で公民館の役割を地域の人たちが主体的に担っていければ。
- ・これから千石荘の跡地を利用して、公民館の活動を活かしてできることを市民と一緒にすることにも広げられる？

次回のしゃべり場★公民館は…

公民館って何？という人！

知らない人にも聞いてほしい！ 知ってる人には話してほしい！しゃべり場だけど、聞くだけでも大歓迎！お気軽にお越しください！

2月19日(火) 午後1時半～3時半

場所：中央公民館 講座室2

*申し込み不要。当日直接お越しください

■公民館はオールマイティか？

- ・公民館はオールマイティ(なんでもできる)な存在になれなくてもいい！ 公民館が人や活動、困りごとや課題を地域とつなぐことで、地域がオールマイティになればよい！
- ・反対に、公民館に集う人たちができていても、地域でできていなければダメ。公民館がネットワークをつないでいく。
- ・お金・時間のある人だけの活動ではダメ。どんな人でも活動できる場所であれば。
- ・公民館祭りや展示などの発表だけではなく、利用者からの発信・自分たちの声を伝えていく必要がある。自分事として捉えてもらいたい。
- ・公民館の講座に来る人はお客さんじゃない！ 自分たちも運営する側、担い手！ 公民館の活動や講座で身につけてきたもの、学んだことを活かしてつないでいく担い手という意識をもてるような活動に。

■しゃべり場の今後は・・・？

これまで様々な条件を設定して実施してきたしゃべり場。これまでたくさんのお話を聴くことができました。もっともっとたくさんの方のお話が聴きたい！

ということで、集まっているところへ出かけて行こう！ テーマ別の開催もやってみよう！ ということになりました。

◆子育てグループ・団体・講座受講者 対象◆

11月30日(金) 午前10時～12時 山手地区公民館

◆中央公民館利用者 対象(まつり実行委員会内)◆

12月11日(火) 午後7時～ 中央公民館

◆浜手地区公民館利用者 対象◆

12月17日(月) 午後1時～3時 浜手地区公民館

◆Newつるかめ大学受講者 対象◆

1月28日(月) 午前10時～12時 中央公民館

◆山手地区公民館利用者 対象◆

2月4日(月) 午後1時半～ 山手地区公民館



上記の5か所へ出かけて「出張しゃべり場★公民館」を行います。ぜひ、お近くまたは利用している公民館へお越しください！

どんな話でも構いません。いろんな人とつながる場として一緒にしゃべりましょう。

一人での参加は不安、と思う人も来てみたら知っている顔に出会ったり、新しい出会いもありますよ。

ーおさらいー しゃべり場★公民館って？？

3月に開催された3館連続講座を聴いて、公民館でのいつもの活動を、これからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない！ 利用者、職員の立場関係なく、『公民館』を語るところから始めよう！ と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



■この場から 利用者・職員 何ができる？

- ・変わること、変わってはいけないこと、ここは守らなければならないこと、がある。それを確認していく。
- ・変わっていくことも必要。公民館を知らない、振り向いてもらえていない、公民館の影響力を伝えられていない、ということは、もっと利用者・職員共に発信をしていかなければいけない。
- ・いろんなところへ見える力、見える発信をしていく。
- ・しゃべり場から、地域(町会館の活用)、まちづくり(千石荘の跡地利用も含めて)、公民館の建設について、提言を出していけたら。
- ・公民館が外へ出て、いろんな人に「見える」職員であってほしい。



「公民館最初の1歩」はどんなきっかけ？ なぜ公民館へやってきたの？

そんな話を聴かせてください。

しゃべらなくても大丈夫！「パス」もありで！！
みんなの話を聴くだけでもOK！

来年は貝塚市立公民館ができて、
60周年を迎えます

この60年の間、社会全体も、公民館を取り巻く状況も、ずいぶん変わっています。昔の公民館を知っている人、今の公民館を知っている人、みなさんの公民館にまつわるエピソードをたくさん集めて、「公民館がしてきたこと／できていること」、「まだできていないこと」「これからの公民館に求められること」をしゃべり場でも考えていきたいと思います。

また、「公民館のクラブを選んだ理由」、「公民館で私の生活こんなふうに変った」など、いろんな話を出してください。

いろんな人の思いが集まって
できている公民館の活動。
61年目からのスタートに向けて、
利用者・職員関係なく、みんなで
語って行きましょう！



しゃべり場★REPORT No. 3

「貝塚新生プラン」という貝塚市の計画・ビジョンがあるのをご存知でしょうか？ その中に、「施設使用料減免制度の見直し」という項目があります。今、公民館が無料で使用できるのは、公民館が認める地域活動やグループ活動の支援として団体登録をし、減免制度を利用しているからです。

このプランの内容には、使用料の半額程度を払う、有料になるかもしれないということが示されています。そうすると、公民館の活動はどうなっていくのでしょうか？

今回は、このことをテーマに公民館で活動することの意味や公民館で学んだことがどう広がっているのか、また、無料だからできる市民活動などについて、話を進めました。

第3回 しゃべり場★報告

今回のテーマは…

公民館が有料になったらどうなる？

■まずは今回の参加者自己紹介&私の「公民館」あれこれ

- ・最初は子育てを学びに来たけれど、それ以外のこともたくさん学んだ。
- ・公民館では「頑張る私」にも「頑張らなくていい私」にもなれる。
- ・サークルで利用していたが、その後クラブにも入り協議会の役員になって、財政難のことなどを聞いた。クラブ協議会・連絡会の役員をした時に、他のクラブの方からきつく言われたことがあり、協議会の活動が自分たちの活動というより、役員や職員任せの活動になっていると気づいた。
- ・公民館の学びを地域の中で実践している人がたくさんいる。
- ・「公民館が支援すること/しないこと」利用者としてどこまで公民館と関わるか戸惑うこともあった。
- ・私たちが考えないといけないのは、公民館を使っていない人に公民館の学びをどう伝えるか、ということ。利用者は、利用していない人にも「公民館は必要」と思ってもらえる活動ができているか？
- ・利用者の中には「公民館は習い事の間」という認識で、公民館で活動することの意味を知らずに利用している人もいて、有料化などについて自分事として捉えていない。



- ・3回の連続講座を聴いて、公民館職員は施設の管理者ではなく指導者なんだと気づいた。それまでは、「公民館＝ただで使える場所」だったから、有料になっても仕方ないと思っていた。でも、そうではなく、公民館の活動は社会的に意味のあるものだとし、無料でなければならないと思っている。

- ・全国の公民館の数は35,000館から16,000館に

実際、「しゃべり場」ってどう？

- ・たくさんの人に参加してほしいけれど・・・
- ・「しゃべらなアカン」と思わせてしまって、来にくい？ 実際は聴くだけでもいいのに！
- ・最初来るときは「何をしゃべったらいいの？」と思っていたけれど、来たらしゃべりたいことが出てくる！
- ・ここへ来るといろんな話が聴けるし、人との出会いもある！

次回のしゃべり場★公民館は...



公民館って何？ という人！
知らない人にも聞いてほしい！ 知ってる人には話してほしい！ しゃべり場だけど、聞くだけでも大歓迎！ お気軽にお越しください！

11月1日(木) 午前10時～12時

場所：浜手地区公民館・和室

場所は…

浜手地区公民館！

*申し込み不要。当日直接お越しください

■公民館で活動するってどういうこと？

- ・職員との関わりがあり、相談・アドバイスや活動への支援がある。
- ・クラブ協議会などの役で達成感を得ることができ、自分が成長できる。団体の役や事業を通して他のクラブの人とつながりができる。それが公民館で活動することのよさ。協議会がなくなれば、つまらない。
- ・学び→気づき→ネットワークをむすぶ→地域課題へ。このスタイルが公民館の学び。
- ・公民館で学んだ人の育ちから見えてくること→学んだことがどう活かされているか。
- ・働いている人は、サークルに毎回来れないけれど、夏休みになどには、役割もお願いして一緒に参加している。
- ・公民館での育ちが地域を変える！ 公民館で学んだ人がたくさん地域で活躍している。
- ・公民館で集まる意味をみんなで考えることが必要！（目標を持つ→学び→気づきに）
- ・グループ、仲間がいるから頑張れる。役は誰でもできる。
- ・憲法で保障されている「権利としての学び」ができるのは公民館。
- ・公民館の考え方が町会館などで実践できればいい。
- ・公民館は私にとってなくてはならない場所であった。
- ・いろんな入口があって、公民館に関わり、そこでいろんな人とつながる。
- ・子育てサークルがあったから、子育てが大変じゃなくなって、3人目を産もうと思った。
- ・市民の温度差もあるけれど、可能性もある！
- ・腹を割って話せる場所→この関係の中から何か打破していける、と思える。



ーおさらいー シャベリ場★公民館って？？

3月に開催された3館連続講座を聴いて、**公民館でのいつもの活動を、これからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある！それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない！** 利用者、職員の立場関係なく、『**公民館**』を語る**ところから始めよう！**と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



■公民館、有料だったら利用する？

- ・有料だったら、クラブの会費が今より上がる→人が集まらない→回数が減る。最終的には活動できなくなる？
- ・部屋代を払ってまで集まる必要があるか？
- ・人数が多いから無料の場所を他で探すことができず、活動できない。
- ・ふらっと集まって話をするような使い方はできない。
- ・お金が必要だと、主婦や働いていない人など、自由にお金を使えない場合は、来たくても来られなくなる。
- ・有料になったら、公民館は公民館でなくなる。クラブ同士のつながりもなくなり、団体の役をすることで自分が成長することもなくなる。それでは公民館のよさがなくなる。
- ・今は無料で使えることへの甘えもあるかもしれない（使い方など）。有料だときっちりする？
- ・人が集まらない→数を減らす→内容を減らす、とマイナスに動く。工夫の仕方が内容ではなく資金面の工面になる。

■市役所周辺施設の駐車場有料化

次年度以降、駐車場の有料化が進められている市役所周辺施設。これに対して…

- ・中央公民館を利用していないので、中央で活動する人は大変だな、と思う。→中央公民館を利用する人だけの問題？

■今日はどうだった？（最後に一言）

- ・アピール力をもったチラシで、この場を広げていきたい。
- ・しゃべらなくてもいいしゃべり場、「パス有り」でもいい、と呼びかけて参加する人を増やしていきたい。
- ・どの地域、どの市でも同じ課題があるのでは。

■どんなしゃべり場にしていこう？

**たくさんの利用者の人に参加してほしい！
しゃべらなくても大丈夫！「パス」もありで！！
みんなの意見を聴くだけでも大歓迎！**

公民館の有料化。遠い話だと思っていたけれど、そうではないみたいだということが話された今回のしゃべり場。

公民館が無料・減免で使えることの意味や、利用する市民の役割、また公民館職員と利用者の意思疎通など、日頃じっくり話すことのできないことがたくさん出されました。今後多くの人といろんな話題を共有していきたいと思います。次回は浜手地区公民館で開催！ ふらりにご参加ください。

しゃべり場★REPORT No. 2

夜の部

◆第2回「しゃべり場★公民館」の様子を報告します！
(24年8月2日(木) 午後7時～9時 会場：中央公民館 和室)

前回は、午後の開催で27人が参加した「しゃべり場★公民館」。いろんな時間に開催すれば、いろんな人が来られるよね！ ということで、第2回は夜に開催。30代～60代の14人が参加しました。

「働いているから、朝や昼には来られない。夜だから来られました！」という方々が参加し、公民館利用歴も10年、20年…30年を越える人もいて、深く濃い話が飛び交いました。

■今日、ここへ来たのは…？－毎回恒例！1分間自己紹介から－

・公民館でお世話になっているので、「公民館の話をするなら行かないと！」と思って。公民館の話も大事だし、グループに持ち帰って、話をしなければ、と思ったから。
・公民館の55周年事業に参加して、公民館の危機を感じた。来年60周年を迎える時に、利用者みんなの思いが「公民館を大事にしたい」と、一つになればいいなと思って。

・若者が多いクラブに所属しているので、こういう場での話し合いをクラブで伝え、若者と公民館とのパイプ役になればと思って。

・公民館の利用者連絡会の役員になり、公民館の大切さをつくづく感じるようになりました。どんなふうに公民館と関わればいいかなと考えていたので。

■あなたにとって公民館はどんな場所？－あってよかった？公民館－

公民館に最初に来たきっかけは…

- ・友人に誘われてボランティアをしに。
- ・バンド練習の場所を求めて。
- ・子育て中、友達が欲しくて毎日公民館に通っていた。今は、仕事をしているため月1回の集まりのみだけど、顔を合わせたい、皆に会いたいから来る。
- ・公民館1館の時代から来ている。活動場所や人を求めて。

公民館で、こんなこと学びました

- ・役をする、活動するのは、大変大変！と言うけれど、大変さの中から学べる。絆も深まっていく。大変なことだからこそ学べない。



- ・雑談を中心に、いろんな話を引き出して講座につなげることが大事なこと。
- ・人間関係の絆が深まっていった中で、しんどくても代表もしてよかったと思える充実感。

公民館ってどんな場所？

- ・地域のお茶の間
- ・ぶらっと来られるところ
- ・誰が来てもいい所
- ・となりの縁側
- ・こんな公民館にしたい！つくりたい！と集まり要望を出したいときに、白書をつくる力をもっているところ。
- ・活発に意見を言い合える場所。
- ・地域を変える、住民運動を起こす、自らの中で変革していく場所。
- ・困りごとがあったときに気軽に相談に行ける場所。

- ・最初は人前で話すのも苦手だった。役割をやらされてる？と思うこともあったけれど、達成できると自信になり、やっていることが楽しく感じた。

公民館で活動するグループの存在は？

- ・本音を言い合っても大丈夫！ わかりあえる関係。
- ・やろう！と言った時にみんな前向きに協力してくれる。⇒本場の原点
- ・信頼できる存在。
- ・活動を通して中学校や高校等と親しく、地域ともつながれる。教育をメインに取り組みあえる関係。

次回のしゃべり場★公民館は…

公民館って何？ という人！
知らない人にも聞いてほしい！ 知ってる人には話してほしい！ しゃべり場だけど、聞くだけでも大歓迎！ お気軽にお越しください！

9月25日(火) 午前10時～12時

場所：山手地区公民館・視聴覚室

*申し込み不要。当日直接お越しください

今度は朝！

場所も変わって
山手地区公民館！

■利用者・職員、私たちにできること

- ・グループ独自で活動していくのではなく、皆さんとやっていきたい、地域ともつながりたいと思っている。そのつなぐ役割を公民館に期待したい。
- ・近所や町会の様子を見て、公民館いいよ！と言っても公民館まで足を運ばない。必要と思ってくれないと来ない。近い友人に誘われて利用している者の口コミが1番大きいと思う。周囲の人を誘っていききたいと思う。口コミが届かない人にも届く方法を考えたい。
- ・「これを学ぶことは大事だ」ということがわからなくて、それをわかった人が伝えていくことが大事。

・知らないこと、わからない情報を知らないままにするのではなく、情報を収集することも大事にしていきたい。だから自分達の活動をもっと発信していきたい。

・「こうだったらいいのに」→「じゃあ、そうすればいいじゃないの!」と、自分から発信しようって思う人も最近少ないのでは？

ここに集まっているメンバー、つまり私たちから次の担い手や、新しく来るメンバーに伝えていくことが必要なのでは？

- ・利用者と職員が一緒に手を取ってやっていくことが必要。
- ・公民館主催の事業などに、自分たちの持つ資源を活用し、一緒に協力できることがあると思う。

■公民館の課題って何だろう？

◆協議会、連絡会運営・役員の成り手

- ・クラブ協議会の役に当たるのが嫌だからクラブをやめるという人も多い。「クラブ役員を少なくするのはどうか?」というアンケートもとった。誰がやってもできるという任務にしていけないと続かないのでは？
→でも、やれる人がやらないと。
- ・連絡会の会議の雰囲気は？自分の悩みや、他のクラブの悩みも解決できる雰囲気の場合。その場に参加してよかった!と思える場になれば来るのでは？
- ・役員が背負わなアカンっていう雰囲気になりがちだが、全員で作る会議・実行委員会にしていける必要がある。会議に来ないとわからないという状況にしていけないと、会議に来ない。
- ・世話好きがやればいい。でも、世話好きだけがやってもなりたない。
- ・グループの団体の代表、幹部が変わっていかない状態。続けたいけど、続けられない状態で悩んでいる。
- ・新たに学習グループ連絡会に入ってくるグループがない。生れてこないのはなぜか？講座から生まれて所属していったが、組織化するにはいろんな要素が組み合わさらないと難しい。参加者のエネルギーの低下も気にかかる。
- ・グループ運営の中で、代表者がクラブ連絡会や公民館からのお知らせなどをメンバーにまで伝えきれていない。

◆使用料問題

- ・これから有料化の波は絶対来る。一部の人々が「公民館は無料で使用できる施設として必要!」と言っても有料化の波をおさえることはできない。公民館に来ていない人でも公民館は必要だと思ってもらえるように。
- ・クラブで活動していても、情報が入らないから危機感がない。
- ・他市でも、半額免除になり、一気に公民館機能が壊れていった事例がある。貝塚の公民館機能を守るには、利用者からの発信が大切!
- ・公民館に日々の暮らしの課題が解決する場、解決の糸口が見つかる場という機能が必要。

ーおさらいー しゃべり場★公民館って??

3月に開催された3館連続講座を聴いて、
公民館でのいつもの活動を、これからどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある!それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない! 利用者、職員の立場関係なく、『公民館』を語る**ところから始めよう!**と公民館利用者と職員が共に企画し始めました。誰でもいつからでも参加できます。



■今日はどうだった? (最後に一言)

・公民館に関わっていなかったら、こんな話も聞けなかった。公民館に来たから、みんなに会えた。公民館はやっぱり大事!

・情報提供、情報交換の大切さを感じました。

・公民館で学ぶということが基盤。

・クラブ協議会の人がこの場に出てきていないのが残念です。これは大事なな!と思ってほしい。

・利用者も職員にばかり言わず、自分達が気づくことはやってほしい。この場に来ている人も。

・懐かしい顔ぶれに会えてうれしかったです。

・公民館に来ていたからこの場に来られた。みなさん活動の中で失敗しながら進んできたこと知って少し安心した。

■今後に向けて (打ち合わせ会から...)

いろんな時間帯にすると、来る人が違い、出てくる話も様々。

今月から公民館に来ている人も

ずーっと前から来ている人も みんな来てほしい!

しゃべるだけじゃなくて、聴くだけでも大丈夫!

公民館のこと、知らない人には聴いてもらいたい!

公民館のこと、知っている人には話してほしい!

たくさんの人に来てもらえるよう宣伝していこう!と、次回は会場を山手地区公民館に、時間は火曜の午前とします。都合のつく方、ぶらっと寄ってみてください!

しゃべり場★REPORT No. 1

◆第1回「しゃべり場★公民館」開催しました！

(24年6月26日(火)午後1時半～3時半 会場:中央公民館)

3月に開催された3館連続講座を聴いて、

公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくかを、もっと具体的に考えていく必要がある！

それは、職員任せにするのではなく、私たち利用者も一緒に考えなければいけない！

利用者、職員の立場関係なく、「公民館の必要性を感じる者」が集い、『公民館』を語るところから始めよう！と公民館利用者と職員と一緒に企画して始まった「しゃべり場★公民館」。

「何人来るんだろう？20人来たらずごいよね」と話していたところ、27人の参加があり、最初からいろんな話題が飛び出しました。

■今日、ここへ来たのは…？—まずは1分自己紹介から—

・クラブでもらったちらしを見て、「家にいると陰気くさくなってしまうけど、外へ出るきっかけになるし、ここへ来たらいろんな人と知り合えてしゃべれるかな」と思って友だちと一緒に。

・一緒に活動している人に誘われて。

—などなど、今回は集まったのは20代～70代までの27人

職員、利用者の立場関係なく自由に発言していく「しゃべり場」がいい雰囲気で作られていきますー

・公民館がなくなると聞いて、それは困る！！どうなっているんだろう？と思って。

・ちらしを見て、市民と職員が一緒の主催というあいまいな感じが公民館らしくていいと思った。35年公民館に来ているけれど、知らない人がこれだけいたことがうれしい。

■あなたにとって公民館はどんな場所？—あってよかった？公民館—

公民館に最初に来たきっかけは…

・タダだから来ることができた！ やっぱ 「なんて利用者が職員に対して馴れ馴れしいんだろう！自由に事務所に主婦なので自分のためにお金を使うことに 出入してもいいの？」(→今は市民と職員が親しくていいと思うけれど) 罪悪感があり、公民館は無料だから。

・退職して、何か始めたいと思った時に、広報でクラブの舞台発表を知り行ってみた。
そしたら、すごく楽しくて、自分も公民館クラブに入るようになった。



公民館に来た時の印象は…

クラブ見学に来たら、クラブ員の方から説明もなく、印象は悪かった。

・住みやすい、子育てしやすいのが貝塚だと大阪市内から引っ越してきて感じている。

公民館ってどんな場所？

- ・元気に生きる活力をもらえる場所。感謝！
- ・定年を迎えるまで公民館の活動を知らなかったけれど、今はいろんな活動に参加している。その話をすると、他の地域の人からうらやましがられる。貝塚にあってよかった。
- ・子育てサークルで知り合った人と、今でもつながりが続いている。そういう人のつながりができる場所。

公民館で、こんなこと学びました

- ・「管理するのが公民館だ」と思っていたけれど、三館連続講座の講師の話で、そうじゃないのが公民館だという話の中身が理解できつつある。
- ・子育て中は、親の介護については考えられなかった。でも今は、公民館で学んだ学習で、介護の課題に取り組んでいる。
- ・人の話を聞くことが自分の中に染みついてきた。公民館に集う人は、前向きな人が多いな、と思う。

■あってよかった公民館 —私の人生、公民館で変わりました—

・不安いっぱい貝塚に転居してきたけれど、公民館講座からボランティア、そして学習グループの代表に。知らず知らずのうちに育てられたという感じ。
今は、地域に還元できる活動に参加しているが、地元町会で発揮できるようにしたい。

・孤独な子育てからサークルにそしてネットに。充実している。
今は子育ての支援のNPO法人「えーる」の活動をしている。公民館で人生が変わった。手助けできる立場になりたい。



・今でも公民館は民主主義の学校であると思っている。公民館が好きで貝塚に来た。私の人生は公民館だと思っている。

・どういうふうに生きるか、その時々、自分の生き方を考えている。好きなことが仕事になるかも、という希望もある。

・誰もが学べる、集える場所が公民館。そこで学び、同じ子育てネットワークの中の先輩に憧れ、「キラキラとなる人生を送りたい」と思うようになった。

・専業主婦から働く女性に。自己実現、女性の生き方について考えている。

・クラブの委員になるのが大変ということもあるけれど、クラブやグループにただ乗るだけではなく、自分がそのクラブを背負うことで見えるものがある。そういうことを経験できるのが、公民館の活動でもある。そこで自分自身成長できるから、たくさんの人にしてほしい。そのためには、誰もができる仕組み(最低限のマニュアルなど)があって、その上で個性を発揮しながら活動の経験を積めるようにしてほしいのでは。

■公民館の課題って何だろう？

・全国で公民館はつぶれている。公民館での文化活動の甘さを感じる。地域支援を広げるパワーを。

・クラブに入りたいが、役員になりたくない、負担が大きいので辞めるという人が多い。そのため、クラブ活動の衰退がある。

・利用者にはカルチャーセンター的な意識があるのでは。誰でもできる、お世話する中で生まれる喜びを感じられる活動にしたい。

・公民館のいいところが伝えられていないので、行政としてもっとPRできたい。

・公民館活動が活発に行われていた枚方市でも公民館はつぶれた。「公民館利用者はあてにされていない。公民館がなくなってもまちづくりはすすめられる」、という考えから公民館はなくなった。その後、公民館に代わる組織を立ち上げている。このことをどう見るかが討論の柱になるのでは。公民館で、「私はこうして自己実現」したと言うが、枚方でも「自己実現」を果たしている市民はいた。

・文化活動としての公民館クラブ活動の在り方を、障がい者の文化活動から改めて考えることがいる。

・子育て、老い…と窓口が広い。これこそが公民館。幅広い課題をつなげていくことが公民館では。



■今日はどうだった？（最後に一言ずつ）

・こうした場があってよかった。

・これからどこにつながっていけるか楽しみ。

・他の世代と関わりたい、繋がりたい。今の子どもたちも、昔遊び(コマ回し、鉄砲)の人気は不動。

・できていないことはたくさんあるけれど、職員としてやっていきたい。

・文化豊かなまちづくりを目指したい。今は団体の会員は少ないが、長い歴史の中で育ったたくさんの若者たちがいて、自分の体験をつなぎたいと活動している。

・子育てネットワークの活動を通じて、貝塚が好きになった。

・「何もなくてもふらっと公民館に来た、自然と足がむいた」と言っているのを聞いた時、「公民館はこれだ」と思った。

・はっきりと公民館が好きだと共有できる人たちがいる。

・いろんな人の話を聞くことができてよかった。

■今後に向けて（呼びかけ人の反省会で…）

・団体、グループの説明をしてもらう時間をとれなかったので、お互いの活動を知る機会も必要だね。

・次回は、今回の内容も載せてやりたい。その中で、時間帯、内容(テーマ)、集める人(課題)別に息の長いしゃべり場にしていきたいね。

・このしゃべり場そのものが、「公民館大会」になりそう!

・カルチャーセンターと公民館の違いについて話をしてみることも必要では?

次回のしゃべり場★公民館は…

公民館のことを自由に話します!
どなたでも参加できます!

8月2日(木) 19時~21時

今度は夜!

場所：中央公民館

和室

*申し込み不要。当日直接お越しください